NUEVA

ヌエバでチャンピオンを目指せ!!



国際ハンドボール連盟公認球

日本リーグ唯一の公式試合球



日本ハンドボール協会検定球



国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H300W　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●3号球●32枚パネル

国際ハンドボール連盟公認球
日本ハンドボール協会検定球

32H200W　ヌエバ

●手縫い●天然皮革●2号球●32枚パネル

molten®

株式会社 モルテン

東京本社　〒130-0003東京都墨田区横川5丁目5-7

大阪・名古屋・広島・福岡・四国・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフG

巻頭言

この時流の中で教職員ハンドボール連盟の役割を考えてみよう



全日本教職員ハンドボール連盟会長　佐野和夫

日本のハンドボールは学校スポーツとして始まった。時代の推移とともに発展してゆき、20世紀の終わりを迎えた今日、素晴らしいゲームが展開されている反面では、諸々の社会情勢の悪化による煽りを受けて、中学から大学に至るハンドボール部の活動が衰退してきている。この状況下で興味関心を高め、普及拡大を図るために教職員連盟として何ができるか考えてゆかねばならない。

かつて部活動が隆盛になっていった時代には、指導者自らの技術向上、初心者の育成、審判員の養成など多くの課題を解決するために全日本教職員大会を開催してきた。その成果は十分にあげてきている。国体リハーサル大会としても24年に亙って行われ技術の向上や強化、普及など多くの面で実績を残してきた。近年、教員の高齢化、新規採用教員の減少、少子化が進むなど悪い条件の影響を受けて教職員大会への参加チーム数が減少してきている。ここで指導者集団として行う大会の意義を理解して頂き、１チームでも多く参加する呼びかけをすることが必要である。参加者に喜ばれるイベントも同時開催できるよう検討していきたい。

連盟初代会長山田計氏（故人）、二代会長高橋健夫氏（故人）の時代には大会に併せて研究発表会を行い、指導者の研究活動を重視してきた。研究紀要として１８集まで発行している。現在は日本協会で８月に研修会を行っている。教職員連盟として多数の指導者の参加を促していきたい。

今日、「超」と言われる程激しく諸々の事が進んでいる。加えて日本経済は不況に見舞われている。このことはハンドボール界のトップを占める企業にも打撃を与えているが、学校スポーツの衰退にも繋がってきている。学校では部員の減少でチーム編成ができないとか、指導者が転勤して不在になったままとか児童生徒の関心が外に向いてしまったなどから廃部する学校もでている。

学校スポーツを地域社会（社会体育）へ移管する考え方、欧米で行われているようなクラブ・スポーツ化など、いろいろ提言されているが、日本で長く行われてきている学校スポーツは一朝一夕で変革することはできない。教育行政機関は、課外の部活動を盛んにすることを考えている。例えば２校でチームを編成するなど、これは文化活動にも当てはまる。

この時流の中で指導者集団である当連盟は、「今、何ができるか」を考えて斯道発展に協力しなければならない。

第14回

世界女子ハンドボール選手権大会

惜しくも決勝トーナメントに勝ち上がれず

1999年の最後を飾るビッグイベント、第14回世界女子選手権大会がノルウェー、デンマークを会場に11月29日～12月12日までの日程で行われた。出場は日本を含む24ケ国が４つの予選リーグに分かれ１回戦総当たりの後、各組上位４ケ国による決勝トーナメントで順位を決定する。

日本は初戦マケドニアでの敗戦が尾を引き、１勝３敗１分で決勝リーグに駒を進めることができず17位に終わった。当初目標に掲げた決勝リーグ進出、５位入賞によるシドニーオリンピック出場権獲得はならなかったが、１月末熊本で行われるアジア選手権兼シドニーオリンピックアジア予選に向けての確かな手応えをつかむことができた。

大会は主催国ノルウェーが、第２延長の末悲願の初優勝。オリンピック出場権を得た５チームは全てヨーロッパ勢であった。しかしながら前回優勝のデンマークは準々決勝で躍進著しいフランスに延長の末敗れ、順位決定戦でもハンガリーに敗れ６位となり、今大会でのオリンピック出場権を得ることはできなかった。アジアで唯一決勝リーグに勝ち進んだ韓国は一回戦で28—27でマケドニアに敗れ９位であった。日本も予選リーグではマケドニアと当たり25—27で敗れはしたものの十分な内容であった。熊本での対決にも十分期待が持てよう。

第14回世界女子ハンドボール選手権大会観戦記

---------------------女子強化委員長　緒方　嗣雄

ノルウェー、デンマークの２国で開催される第14回世界女子選手権大会に日本チームは、Ｃグループ、デンマークと同グループとなり、デンマークのコーリング市で戦う事となった。国内合宿を終え、大会の一週間前にデンマークに入った。試合会場となったコーリング市より２時間弱のスベンボーという港町で最終調整に入った。身体のコンディションを整えながら練習ゲームを３試合消化、ＤＦの調整、ＯＦの確認と細かいチェックを行い大会に臨んだ。

日本からの応援団70名近い人数が、会場に陣取り試合前より日の丸を振っての大声援である。Ｃグループの開幕戦となり選手個々も若干の緊張も見られるが、この日の為に苦しい練習に耐えた自信があふれる顔付きでマケドニア戦に臨んだ。互角以上の展開をするが、自滅（オーバーステップ、ブロッキング、シュートミス）で、リズムに乗れず同点に追いつくも、リードが出来なくて２点差で敗れる。ＯＦ・ＤＦ共に充分に機能したが、シュートミスに尽きる敗因であった。

第２戦は、地元デンマークと2000人を越える大応援団を向こうに回し、70名程の日本の応援団も声援を送るが、試合コート上と同じく無残にもパワーに押し潰されたデンマークとの戦いであった。

第３戦アンゴラは、前大会も対戦し引き分けた相手である。メンバーもほとんど変わっておらず不気味なチームである。１、２戦の反省から審判の笛に対応する事、気迫のこもったシュートを打つ、の２点を注意し、決勝トーナメント進出をかけた試合に臨んだ。相変わらずシュートミスが多く決定的なリードを奪えない、逆にパワープレーにより、アタックＤＦを破られリードを許すも試合終了間際、相手ミスに乗じ速攻で同点とする。負け試合を良く粘って引き分けた、次につながる試合ができた。

第４戦ドイツ、前半は互角に戦うが、後半、アタックＤＦの疲れで退場者が多く、リズムをつかむ事なくドイツのパワーに押し込まれた。

最終戦アルゼンチン、現段階では力の差が大きく終始日本のペースで大差で勝利を収めた。結果、予選リーグ１勝１分３敗となり、目標としていた決勝トーナメントに進めなかった。すべてが第１戦のマケドニア戦にかかっていたと思う。余裕か緊張かゲーム前のリラックスが裏目に出た。ゲーム戦術は成功したが、個人的なミスと審判に対応できなかった２点が反省点と思う。

次回アジア選手権では、同じ繰り返しをしないよう戦いたいと思っています。

最後になりましたが、日本からの大応援団、ノルウェーの偵察サポート団には、寒い中大変お世話になりました。また、デンマークに於いてすべてをコーディネートして頂きました元ＩＨＦＣＣＭ委員アラン・ルンド御夫妻には、感謝しお礼申し上げます。

予選リーグ日本チームの結果

■第１戦：11月30日

マケドニア　27（15—10／12—15）25　日本

今大会の初戦。立ち上がりから互角の展開。しかし、堅さのとれない全日本は10分過ぎからミスを連発する。これを確実に得点され、20分には６対12とリードを許す。その間、決定的チャンスを作るのだが、シュートミス・パスミス等でリズムに乗れなかったのが痛かった。結局、前半を10対15で終了。

後半10分までに前半同様、決定的チャンスにミス（７ｍスロー３本を止められる)。苦しんでいた全日本に日本から総勢60名を超す大応援団が後押し。そこから全日本の猛攻撃が始まった。ＧＫ山下のファインプレー。アタックディフェンスからのパスカット。ミスを誘っての速攻と、みるみるうちに点差を縮め、22分にはついに同点に追いつく。しかし、粘るも逆転するにはいたらず、25対27で終了。自分たちのハンドボールを展開しながら詰めを欠き、自滅という形で星を落としたが、２戦目以降に十分に期待のもてる内容であった。　（全日本女子監督・伊藤宏幸）

《日本の得点》田中（美音）６、沖土居５、上出４、小松３、田中（由）２、倉知２、青戸１、中村１、山下１

■第２戦：12月１日

デンマーク　28（13—８／15—７）15　日本

第２戦は前回の世界チャンピオン、地元のデンマーク。大勢のサポーターで埋めつくされた中でゲームが始まった。デンマークのスピード豊かな速攻を防いで、なんとかセット勝負に持ち込みたい全日本であったが、前半だけで７本の速攻を許す展開で前半を終了（８対13)。

後半に入りますます勢いに乗るデンマークに対して、決まったと思われた攻撃をオーバーステップやブロッキングと判定され、それに戸惑い、なかなかペースをつかめない全日本。中盤以降、徐々に点差が開き、結局15対28で終了。

こういった判定の中でも自分たちのプレーが出せて勝っていってこそ、世界のトップクラスの仲間入りができるのだと痛感したゲームであった。そういった面でも完敗ではあったが、残り３戦に全力を注ぎたい。

（全日本女子監督・伊藤宏幸）

《日本の得点》田中（美音）５、上出２、小松２、中村２、沖土居１、田中（美代）１、山下１、田中（由）１

■第３戦：12月２日

日本　22（10—８／12—14）22　アンゴラ

前日、ドイツ相手にすばらしい試合をして引き分けたアンゴラに対して、立ち上がりから積極的にアタックディフェンスを仕掛けてペースをつかむ。しかし、前日と同様、大事なところでノーマークシュートを失敗して大量リードを奪えず、10対８で終了。

後半に入り一進一退を繰り返す。15分過ぎからディフェンスの運動量が落ちたところで５連取され、16対21とリードされる(後半22分)。ここから開き直ったのがいい方に流れ、次々と速攻が決まり、１点差まで追い上げる。残り１分を切って、アンゴラのボール。敗戦を覚悟したとき、アンゴラのロングシュートをＧＫ山口が好セーブ。それを速攻に持ち込む。残り10秒。サイドを走る沖土居にボールが渡り、同点ゴール！

執念の引き分けに持ち込んで、決勝トーナメントに望みをつなぐことができた。残り２戦、全力をぶつけて戦いたい。　（全日本女子監督・伊藤宏幸）

《日本の得点》田中（美音）７、上出５、沖土居３、田中（美代）３、小松２、中村１、田中（由）１

■第４戦：12月４日

ドイツ　32（12—10／20—12）22　日本

立ち上がりポストで先制されるが、田中（美代子）のロングシュートが決まり同点。そこから一進一退が続く。ドイツのセットオフェンスを豊富な運動量で良く守っていたが、フリースローからロング・ポストで失点を重ねた（前半10対12)。

後半、早い時間に追いつきたい全日本に、10分から立て続けに退場のチャンスが。しかし、この間、１得点、１失点で追いつくことができなかった。20分まで５点差。まだまだチャンスがあったのだが、逆に速攻を浴び、点差を広げられ、結局22対32で終了。

残念ながら決勝トーナメント進出ならなかった。明日のアルゼンチンをアジア予選に向けて新たなスタートにしたい。　（全日本女子監督・伊藤宏幸）

《日本の得点》田中（美代）10、上出３、沖土居３、田中（由）３、山下１、田中（美音）１、中村１

【予選リーグ】

A 組

順位		NED	NOR	POL	BLR	CZE	AUS	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1	オランダ (NED)	＼	24 ○ 18	20 ● 22	29 ○ 24	25 ○ 21	26 ○ 16	5	4	0	1	124	101	23	8
2	ノルウェー (NOR)	18 ● 24	＼	22 ○ 19	29 ○ 13	30 ○ 21	38 ○ 11	5	4	0	1	137	88	49	8
3	ポーランド (POL)	22 ○ 20	19 ● 22	＼	29 △ 29	27 ○ 24	29 ○ 19	5	3	1	1	126	114	12	7
4	ベラルーシ (BLR)	24 ● 29	13 ● 29	29 △ 29	＼	24 ○ 22	37 ○ 14	5	2	1	2	127	123	4	5
5	チェコ (CZE)	21 ● 25	21 ● 30	24 ● 27	22 ● 24	＼	36 ○ 15	5	1	0	4	124	121	3	2
6	オーストラリア (AUS)	16 ● 26	11 ● 38	19 ● 29	14 ● 37	15 ● 36	＼	5	0	0	5	75	166	−91	0

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

B 組

順位		AUT	FRA	UKR	ROM	C I V	CUB	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1	オーストリア (AUT)	＼	22 ○ 19	26 ○ 25	27 ● 30	32 ○ 24	37 ○ 27	5	4	0	1	144	125	19	8
2	フランス (FRA)	19 ● 22	＼	18 ○ 16	22 ○ 20	31 ○ 19	34 ○ 21	5	4	0	1	124	98	26	8
3	ウクライナ (UKR)	25 ● 26	16 ● 18	＼	27 ○ 26	29 ○ 20	41 ○ 19	5	3	0	2	138	109	29	6
4	ルーマニア (ROM)	30 ○ 27	20 ● 22	26 ● 27	＼	33 ○ 15	37 ○ 19	5	2	0	2	146	110	36	6
5	コートジボワール (C I V)	24 ● 32	19 ● 31	20 ● 29	15 ● 33	＼	32 ○ 17	5	1	0	4	110	142	−32	2
6	キューバ (CUB)	27 ● 37	21 ● 34	19 ● 41	19 ● 37	17 ● 32	＼	5	0	0	5	103	181	−78	0

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

■第５戦：12月５日

日本　34（17—6 / 17—9）15　アルゼンチン

予選リーグ最終戦。アジア予選に向けてのスタートの意味でも勝っておきたい全日本。立ち上がりから速攻を連発。昨日までのプレーが嘘のように伸び伸びとした選手たち。前半を17対６で折り返す。

後半に入っても日本の猛攻は止まらず、次々とアルゼンチンゴールに襲いかかる。自力に勝る全日本が34対15で勝利。

予選リーグ、５戦１勝３敗１分で終了(５位)。目標としていた予選リーグを突破し、５位入賞は果たせなかったが、自分たちの持っている力を出せれば十分に戦えることがわかった大会でもあった。今後さらに精進し、シドニーオリンピックのチケットを手に入れたいと思います。

日本からはるばる応援に来ていただいた皆さん、そして、日本の関係者の皆さん、どうもありがとうございました。

（全日本女子監督・伊藤宏幸）

《日本の得点》山崎８、山下７、倉知４、青戸３、上出４、宮本３、沖土居２、熊谷２、田中（由）２

最　終　順　位

優勝　ノルウェー（A組２位）
２位　フランス（B組２位）
３位　オーストリア（B組１位）
４位　ルーマニア（B組４位）
５位　ハンガリー（D組１位）
６位　デンマーク（C組１位）
７位　ドイツ（C組２位）
８位　マケドニア（C組３位）
９位　韓国（D組２位）
10位　オランダ（A組１位）
11位　ポーランド（A組３位）
12位　ロシア（D組３位）
13位　ウクライナ（B組３位）
14位　ベラルーシ（A組４位）
15位　アンゴラ（C組４位）

C 組

順位		DEN	GER	MKD	ANG	JPN	ARG	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1	デンマーク (DEN)		31 ○ 28	27 ○ 24	31 ○ 12	28 ○ 15	42 ○ 5	5	5	0	0	159	84	75	10
2	ドイツ (GER)	28 ● 31		23 ○ 18	20 △ 20	32 ○ 22	34 ○ 9	5	3	1	1	137	100	37	7
3	マケドニア (MKD)	24 ● 27	18 ● 23		34 ○ 22	27 ○ 25	33 ○ 10	5	3	0	2	136	107	29	6
4	アンゴラ (ANG)	12 ● 31	20 △ 20	22 ● 34		22 △ 22	37 ○ 13	5	1	2	2	113	120	− 7	4
5	日本 (JPN)	15 ● 28	22 ● 32	25 ● 27	22 △ 22		34 ○ 15	5	1	1	3	118	124	− 6	3
6	アルゼンチン (ARG)	5 ● 42	9 ● 34	10 ● 33	13 ● 37	15 ● 34		5	0	0	5	52	180	−128	0

※勝敗（○ △ ●）の上が得点、下が失点を表す。

D 組

順位		HUN	KOR	RUS	BRA	CHN	CGO	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1	ハンガリー (HUN)		33 ○ 29	34 ○ 25	22 ○ 13	34 ○ 25	39 ○ 17	5	5	0	0	162	109	53	10
2	大韓民国 (KOR)	29 ● 33		30 ○ 24	27 ○ 20	29 ○ 19	36 ○ 19	5	4	0	1	151	115	36	8
3	ロシア (RUS)	25 ● 34	24 ● 30		30 ○ 17	38 ○ 21	42 ○ 20	5	3	0	2	159	122	37	6
4	ブラジル (BRA)	13 ● 22	20 ● 27	17 ● 30		24 △ 24	30 ○ 20	5	1	1	3	104	123	−19	3
5	中華人民共和国 (CHN)	25 ● 34	19 ● 29	21 ● 38	24 △ 24		31 ○ 15	5	1	1	3	120	140	−20	3
6	コンゴ (CGO)	17 ● 39	19 ● 36	20 ● 42	20 ● 30	15 ● 31		5	0	0	5	91	178	−87	0

※勝敗（○ △ ●）の上が得点、下が失点を表す。

16位 ブ ラ ジ ル（D組4位）
17位 日 本（C組5位）
18位 中 国（D組5位）
19位 チ ェ コ（A組5位）
20位 コートジボワール（B組5位）
21位 キ ュ ー バ（B組6位）
22位 コ ン ゴ（D組6位）
23位 オーストラリア（A組6位）
24位 ア ル ゼ ン チ ン（C組6位）

▼決勝トーナメント

1回戦 12/07(火)　準々決勝 09(木)　準決勝 11(土)　決勝 12(日)

チーム		1回戦	準々決勝	準決勝	決勝
オランダ	(A組1位)	16			
ルーマニア	(B組4位)	26	33		
マケドニア	(C組3位)	28	21		
韓国	(D組2位)	27		17	
フランス	(B組2位)	28		18	24
ポーランド	(A組3位)	21	19		
ブラジル	(D組4位)	23	17		
デンマーク	(C組1位)	30			
オーストリア	(B組1位)	28			
ベラルーシ	(A組4位)	27	24		
ロシア	(D組3位)	19	13		
ドイツ	(C組2位)	22		18	
ノルウェー	(A組2位)	24		30	25
ウクライナ	(B組3位)	19	24		
アンゴラ	(C組4位)	18	21		
ハンガリー	(D組1位)	38			

優勝 ノルウェー

第51回 全日本総合ハンドボール選手権大会（男子の部）

大同特殊鋼が5年ぶり8回目の優勝

第51回全日本総合ハンドボール選手権大会、男子の部は、平成11年12月22日(水)から25日(土)まで、愛知県体育館、千種区スポーツセンターで行われた。

本年度は、女子ナショナルチームが第14回女子世界ハンドボール選手権大会に出場のため、男女分離開催となった。女子の部は、平成12年２月神奈川県で開催される。

大会は、日本リーグ前期が終わって、１位と２位の大同特殊鋼と本田技研が、危なげなく順調に決勝へと駒を進めた。決勝戦では、この大会から大同特殊鋼に加わったペク・ウオンチョルとパク・ソンリップの両韓国人選手の活躍で、激戦を制した大同特殊鋼が昨年の雪辱を果たし、５年ぶり８回目の優勝を飾った。

大会の展開は、大同特殊鋼と本田技研の強さが目立ち、この大会に限って言えばこの２チームが力は抜きに出ていたといえよう。また、全体的に大味な試合が多く、１回戦で本田技研熊本と日本体育大学が接戦を演じたのみであった。

大会の最優秀選手には、大同特殊鋼のパク・ソンリップ選手、最優秀監督賞には大同特殊鋼、末岡政弘監督が選ばれた。

試合結果

《１回戦》

大同特殊鋼　38（21―6／17―13）19　香川クラブ

大同特殊鋼がオフェンス、ディフェンスなどすべての面で力の差を見せつける試合となった。富本、藤井、ＧＫ日原ら全日本選手と朴、新加入の白ら韓国人、そしてその他の中堅、若手の選手たちがそれぞれの持ち味を発揮し、試合開始から香川クラブを圧倒、地元開催での意気込みを感じさせた。香川クラブも持ち前のコンビプレー、スピードプレー、そして売り物の技巧プレーで対抗し、後半は加藤、河合らのシュートで応戦し見せ場をつくった。この日、日本デビューの大同の白は、シュート、パスなど随所で会場を魅了した。

本田技研熊本　22（10―9／12―11）20　日本体育大学

試合開始から両チームともスピードある攻防を展開、見応えのあるゲームとなった。本田技研熊本はジザ、魚住を中心に加点、一方、日体大はＧＫ高木の好セーブからの速攻でリズムをつかみ、前半は10―９と本田技研熊本が１点リードした。後半５分過ぎから日体大は10分間無得点。その間本田は着実に加点、このまま終わるかと思われたが、日体大はタイムアウト後に息を吹き返し、松林のポストなどで追い上げた。しかし点差は縮まらず、残り１分半での日体大のオールコート・マンツーも及ばず、本田技研熊本が勝利した。



トヨタ車体、野村選手のカットイン

トヨタ車体　28（10―8／18―7）15　アラコ九州

前半４分30秒まで両チームとも無得点だったが、その均衡を破ったのはアラコ九州の久保の速攻であった。前半10分トヨタ車体は高杉のポストシュートで２点リードしたが、アラコ九州は田中のスカイプレイなどで食い下がり16分には４―４の同点に追いついた。しかしアラコ九州のミスにつけこんだトヨタ車体は連続３点を取り、前半20分７―４とリードを広げた。その後一進一退の攻防で前半を10―８で終了した。後半は開始からトヨタ車体のペースで進み、速攻、セットプレー等で得点を広げていった。アラコ九州も、キーパー谷川の好セーブや最後まで攻めを繰り広げていったが、最終的には後半流れに乗ったトヨタ車体が28―15で勝利した。

湧永製薬　37（16―7／21―7）14　ケーブルネット氷見

若さあふれるケーブルネット氷見が日本リーグの湧永製薬に挑んだ試合。立ち上がりは互角であったが、徐々に湧



写真提供・読売新聞中部本社

永製薬が地力の差を見せつけた。前半５分過ぎから、ケーブルネット氷見が湧永製薬の高いディフェンスを攻めあぐねる中、湧永製薬は速攻を中心に加点。一気に試合を決めた。ケーブルネット氷見は中川、小川のリードから屋敷、江幡のシュートなどで追い上げるが、集中力を切らさずにコート上の全員がコンスタントに得点した湧永製薬が圧勝した。

三陽商会　32（19—９／13—８）17　順天堂大学

インカレ準優勝の成績で大会出場を果たした順天堂大学と、全日本プレーヤーのエース岩本を擁する日本リーグ１部の三陽商会との興味深い一戦。試合は五島のペナルティシュートを皮切りに、岩本の巧みなパスワークからの展開で三陽商会が優勢にゲームを進める。一方、順天堂大学もキャプテン渡辺を中心に多彩な攻めで三陽商会の厚いＤＦのすきを巧みにつきチャンスをつくるが、得点に結びつかず、大差で前半を折り返した。後半立ち上がり15分三陽商会の退場が続き、差が縮まるかと思われたが、中川を中心に余裕ある攻防で点差を着実に広げていった。途中順天堂大学も桜庭の気迫あふれるシュートも見られたが、健闘むなしく三陽商会が日本リーグ１部の力を見せつけた試合となった。

OSAKI OSOL　25（15—９／10—10）19　トヨタ自動車

立ち上がり15分まで両チーム互角の展開でゲームが進行。しかしＯＳＡＫＩは相手２分間退場のすきを巧みにつき、得点すると、その後リズムに乗った攻撃を見せ、ポスト、速攻とバランスよく加点。一気に差を広げる。対するトヨタ自動車もコーチ兼任の三輪を投入し、巻き返しを図るものの差は縮まらず、前半が終わる。後半に入ってもＯＳＡＫＩは荒尾がコントロールタワーとなり、森本、佐藤らのフローター陣をリード。ポストやサイドともよく絡み、得点を重ねる。トヨタも意地を見せ、厚沢、光田が必死に反撃するも前半の失点が大きく、粘りも及ばなかった。結局日本リーグ１部の力を見せつけたOSAKI OSOLの快勝ゲームであった。

日新製鋼　34（18—11／16—18）29　デンソー

日本リーグから離れた日新製鋼に対し日本リーグ入りしたデンソーの対戦で、意地のぶつかり合う一戦であった。前半デンソーは梅井のミドルシュートからの３連続得点でさい先のよいスタートを切った。しかし地力に勝る日新は嶌本のサイドシュート、源内のペナルティシュートなどで追い上げ、鮎沢のポストシュートで逆転すると、一気にリードを広げ、前半で７点差とした。後半デンソーは、小兵飯山のサイドシュート、速攻などで追い上げた。しかし、日新は控えも総動員し、余裕のある試合運びで逃げきった。日新の嶌本、源内、角谷の動きが目立つゲームだった。

本田技研　27（14—５／13—６）11　北陸電力

最初は両チームとも硬さが見られ雑なプレーやミスが目立ち、速攻での点の取り合いでゲームは始まった。日本リーグ１部の本田は、スカイプレーを含め、フランスの両外国人を軸にどこからでも得点できるチーム、一方北電はＧＫ西田が再々好セーブを見せピンチをしのぐが、なかなかペースに乗れず、徐々に本田がリードを広げていった。20分過ぎには、本田が５連続得点をあげ、前半は14—５で終了。後半フランス人コンビを下げて臨んだ本田は、後半から満を持しての出場の加藤のランニングシュート、キャプテン日原のポストシュート、全日本のメンバーでもある佐々木の豪快なロングシュートなどで更にリードを広げていった。北電もスピードあるパス回しから活路を見いだそうとするが、文字どおり本田ＤＦの壁は高く、結局27—11の大差で本田が貫禄勝ちを収めた。

《準々決勝》

大同特殊鋼　35（17—４／18—３）７　本田技研熊本

地元での優勝をねらう大同特殊鋼が前・後半にわたり、攻守で本田技研熊本を圧倒した。攻撃では、起点が多彩で全ポジションからまんべんなく得点をあげ、守備では出足の鋭い１—２—３ディフェンスが見られた。さらに分厚い大同ディフェンスを崩してもＧＫ日原が待ち構えていることは相手チームにとって恐怖であろう。一方、本田技研熊本も、終始集中力を切らさず対抗したが及ばなかった。若い選手の今後の成長に期待したい。

湧永製薬　22（14—７／８—12）19　トヨタ車体

気合い充分の両チームの熱のこもった好ゲーム。湧永製薬は中山、ブラマニスの迫力あるロングシュートと森山、山口で得点、トヨタ車体は北出、野村らがゴールを決めた。



写真提供・読売新聞中部本社

しかし前半22分から湧永のディフェンスがトヨタ車体の攻撃を封じ込め、前半は７点差で湧永がリードした。後半は逆にトヨタ車体のペースとなり、野村のカットイン、ロングと大車輪の活躍で残り５分、１点差まで追い上げた。しかしここで湧永は確実に山口のポストシュートで点差を広げ、さらにこの後、トヨタ車体清水の退場で勝負あった。トヨタ車体のチャレンジ精神と好プレーは観客を魅了した。

三陽商会　27（14－2 / 13－9）11　OSAKI OSOL

開始しばらく両チームとも点が取れない時間が続いたが、三陽のエース岩本がロングシュートを決めたところから試合が動き出す。三陽は岩本、五島、山口のフローター陣で連続得点したのに対し、ＯＳＡＫＩは狭い角度からのシュート、オフェンスファールなどのミスが目立ち、完全な三陽ペースに。ＯＳＡＫＩも流れを変えようと前半15分のタイム後、システムの変更、選手の入れ換えを行ったが、目立った効果なく大差で前半が終了。後半も終盤になってようやくＯＳＡＫＩも連続得点を挙げたが、三陽をあわてさせるには至らなかった。三陽の完勝と言える試合であった。

本田技研　37（20－11 / 17－7）18　日新製鋼

昨年度優勝の本田技研に対し、日新製鋼は立ち上がりから本田のストックランにマンツーマンディフェンス、攻撃ではフォーメーションプレーを中心に対抗した。しかし本田のもう一人の外国人ヴォルの攻撃を止め切れず、前半だけで彼に11得点を許した。日新も源内の確実な７ｍスロー、角谷のロングなどで最後まで食らいつくが、王者の風格の漂う本田技研には及ばなかった。本田の両外国人のパワフルなシュートに会場中がどよめくシーンが印象的な試合であった。


ストックラン（本田）選手のロングシュート

第51回全日本総合選手権大会の審判員について

審判部長　斉藤　実

その年度の全国大会の審判員については、その大会に必要なペア数を各ブロックに振り分け、ブロック審判部長の推薦により編成される。

しかし総合選手権については別途に編成されていた。その編成がガラス張り的ではなかったことから、今回から審査指導委員が推薦母体となって編成した。

９月22日名古屋で委員会を開き、審判委員会の課題検討と総合選手権審判員の推薦作業を行った。

1　ＩＨＦ、コンチネンタル審判員から実力者を選出
2　99年度指名審判員から候補者選出
3　99年度日本リーグ担当数及び評価点の高い者
4　98年度総合選手権担当審判員
5　シンポジウム、研修会への参加状況（自己改革に努力しているか）
6　女子１ペアの道を残す

といった内容で検討し、男女別開催の為

男子担当：後藤登、清水宣雄、仲田稔、植村彰、藤井俊朗、大尉嘉彦、小林一夫、土屋雅男の８名

女子担当：浜田浩和、小笠原久朗、家永昌樹、福島亮一、浅野幹也、神谷真次、工藤里花、外舘由美子　の合計18名をノミネートした。

この選考方法は、平成12年度も継承する予定である。

《準決勝》

大同特殊鋼　28 (15—10 / 13—10) 20　湧永製薬

【大同特殊鋼】			【湧 永 製 薬】		
得点	氏　名	番号	番号	氏　名	得点
0	荻　田	1	1	多　田	0
0	佐　藤	2	2	森　山	4
10	朴	3	3	下　川	2
3	冨　本	4	5	浜　本	0
1	中　谷	6	6	山　口	2
0	市　原	7	7	中　山	3
4	藤　井	8	9	小　薮	0
0	末　岡	10	10	ブラマニス	4
0	日　原	12	11	加　川	0
0	柴　田	14	12	坪　根	0
0	南　川	15	13	小　沢	3
10	白	18	15	杉　山	2
28 計		(仲田・植村)			計 20

大同朴のロングシュートで幕を開けたこの試合、湧永は中山、ブラマニスのロングシュート、山口のポストで加点、一方大同も朴、白の韓国人を中心とした攻撃で得点を重ねる。大同はGK日原の堅実なキーピングもあり、前半を5点リードで終了した。後半も大同の韓国人コンビの破壊力抜群のシュートは止まることなく、相手の退場も重なる中、一気の5連取で試合を決めた。湧永も森山、下川のスピードプレーで追い上げるが、地元大応援団に後押しされた大同が決勝進出を決めた。

本田技研　27 (15—11 / 12—10) 21　三陽商会

【本 田 技 研】			【三 陽 商 会】		
得点	氏　名	番号	番号	氏　名	得点
2	池　辺	2	2	五　島	0
1	羽　賀	3	5	中　川	8
0	佐々木	4	6	渡　辺	1
2	斉　藤	7	7	永　島	0
1	加　藤	8	8	岩　本	5
1	広　政	10	10	田　中	2
0	谷　口	11	12	元　村	0
0	阿　部	15	14	所	2
0	吉　井	16	16	宇田川	0
0	日　原	17	17	田　中	2
9	ストックラン	18	18	木　村	1
11	ヴォル	21	11	湯　井	0
27 計		(藤井・大樋)			計 21

開始30秒後、三陽商会中川のロングシュートから前半が始まった。10分過ぎあたりから本田技研がカットイン、速攻を決め徐々に点差を広げていった。三陽商会も高い本田技研のディフェンスに対し、カットインやステップシュートで反撃したが前半は15—11で本田技研が4点差をつけ終了した。後半も前半同様本田技研はヴォル、ストックランの2人を中心に得点を重ねリードを広げた。三陽商会もキャプテン岩本のロング、ステップシュートや中川のカットイン、所も積極的な攻撃を仕掛けたが最終的には27—21でセットプレー、速攻で確実に点差を広げた本田技研が勝利した。また退場も多くお互い白熱した試合であったとも言える。

《決勝》

大同特殊鋼　26 (14—13 / 12—11) 24　本田技研

【大同特殊鋼】			【本 田 技 研】		
得点	氏　名	番号	番号	氏　名	得点
0	荻　田	1	2	池　辺	1
0	佐　藤	2	3	羽　賀	1
10	朴	3	4	佐々木	1
1	冨　本	4	7	斉　藤	2
1	中　谷	6	8	加　藤	2
1	市　原	7	10	広　政	0
2	藤　井	8	11	谷　口	0
3	末　岡	10	15	阿　部	0
0	日　原	12	16	吉　井	0
1	柴　田	14	17	日　原	0
0	南　川	15	18	ストックラン	8
7	白	18	21	ヴォル	9
26 計		(後藤・清水)			計 24

両チームの大応援団に沸き返る決勝戦。前半半ば過ぎから大同が日原、荻田の両GKの好セーブから白、朴の韓国人コンビがシュートを決めペースをつかんだ。一方、本田も20分過ぎから追い上げ、ディフェンスからの速攻、ストックランの豪快なシュートなどで、1点差に詰めて前半を終了した。後半は逆に本田GK吉井がナイスセーブを見せる中、流れは本田に。ヴォルの強烈なシュートなどで逆転に成功した。しかし大同も朴がシュートを決め1点を争う展開に。残り5分、再び大同GK日原が本田の攻撃に立ちはだかり、末岡、藤井、白とゴールを決めた大同が、本田の両外国人のシュートによる追い上げをかわし優勝を勝ち取った。両チーム、エキサイトする場面も見られたが、決勝にふさわしい好ゲームであった。

第51回全日本総合選手権大会男子の部を観戦して

機関誌特派員　村山　みどり（元ナショナルＧＫ）

12月22日から愛知県で開催された全日本総合選手権大会男子の部を観戦しました。１回戦は、愛知県体育館と千種スポーツセンターの２会場で行われました。１回戦は、千種スポーツセンターで行われた４試合を見ました。１回戦で注目したのは、インカレを制覇した日本体育大学対本田技研熊本でした。両チームとも試合開始からスピードある攻防を展開し、見応えのあるおもしろい試合でした。前半を本田技研熊本が10点、日本体育大学が９点の１点差で折り返し、後半の流れ次第では学生が実業団を破るかとも感じられました。しかし、後半５分を過ぎてから日本体育大学の得点が10分間無得点、その間本田技研熊本が順調に点を重ね、結局、本田技研熊本が22―20で勝利しました。

千種スポーツセンターは、外観も新しくきれいな体育館でした。観客席で見ていた女性の方もきれいな体育館で観戦できてうれしそう。でも今日は１回戦ということもあって実力の差が出てしまっている。好きな選手は、試合中のパフォーマンスがおもしろい大同特殊鋼の末岡選手という感想をいただきました。

２回戦では、日本リーグを離れた日新製鋼が１回戦でデンソーを破って、昨年度優勝の本田技研と対戦しました。日新製鋼は立ち上がりから本田技研のストックラン選手に対しマンツーマンディフェンスを用いましたが、もう１人の外国人のヴォル選手の攻撃を防ぐことができず、前半だけで11得点を許してしまいました。後半に入っても本田技研の両外国人の勢いは止まらず、結果37―18という大差で本田技研が日新製鋼を下しました。この試合では、日新製鋼を懸命に応援していた方々の姿が印象的でした。三陽商会対大崎オーソルの試合は、前半で三陽商会14点、大崎オーソル２点とまったく大崎オーソルがふるわず、27―11と三陽商会が快勝しました。湧永製薬対トヨタ車体は、前半は湧永が14―７とリードしたものの後半になってからは、トヨタ車体が野村選手の活躍で、残り５分１点差まで追い上げましたが、一歩及ばず、22―19で湧永製薬が辛勝しました。大同特殊鋼対本田技研熊本は、大同特殊鋼の多彩なプレイが本田技研熊本を圧倒、35―７の大差で大同特殊鋼が快勝しました。

準決勝は、本田技研対三陽商会、大同特殊鋼対湧永製薬という組み合わせになりました。本田技研対三陽商会は本田技研の幅広い攻撃に三陽商会のディフェンスが崩された感じでした。それに加えて、要所でのノーマークシュートミスが今ひとつ三陽商会が波に乗れなかった原因ではないかと思いました。結果は、両外国人を中心に確実に点を重ねた本田技研が27―21で勝利しました。大同特殊鋼対湧永製薬は、大同特殊鋼が朴選手のロングシュート、白選手の突破力のあるプレイ、ＧＫ日原選手の好守、そして大応援団といった心強い味方もいて前半を５点リードで終了しました。後半に入っても、大同特殊鋼の韓国人コンビの勢いは止まらず、湧永製薬は逆に退場者が重なり、28―20で大同特殊鋼が決勝進出を決めました。

決勝は、地元愛知の大同特殊鋼と三重の本田技研という東海勢対決になりました。オープニングセレモニーでは、25日ということもあり、サンタクロースが体育館中央に出て観客を盛り上げるなど楽しい催しもありました。その上、両チームとも大応援団がスタンドに来ていて1999年を締めくくるに相応しい決勝戦となりました。前半の立ち上がりは大同特殊鋼のＧＫ日原選手、荻田選手の好セーブ、両韓国人のシュートなどで大同特殊鋼が試合のペースをつかんだかに見えましたが、本田技研もストックラン選手の活躍で１点差まで詰めて前半を終了しました。後半は、一進一退の攻防が続き、また、エキサイトする場面もあり会場も大盛り上がりでした。そして残り５分本田技研の再三のシュートを大同特殊鋼のＧＫ日原選手が防ぎ、末岡選手、藤井選手、白選手とゴールを決めた大同特殊鋼が優勝しました。


写真提供・読売新聞中部本社

今回の大会では、試合以外の部分にも注目すべきことがありました。松ヤニ使用が可であったことです。今まで愛知県体育館で松ヤニが使用できたことはあまりなかったと思います。選手の方に聞いたところ、やはり松ヤニが使用できて嬉しいとのことでした。しかし、松ヤニを使用すると体育館の床や更衣室が汚れることも確かです。そういったことからも愛知県協会の方や補助役員の方など大会を支えている側の努力を参加チームや選手の方々に受け止めて欲しいと思いました。また、毎日観戦に来ていた中学生の男子生徒と話をしたところ、試合はおもしろいし、自分たちの為になる。全日本選手になるのが夢です。もっと、テレビで放送して欲しい。もっとメジャーになったらいいのに。と様々な意見が出ました。最終日はコートサイドに観客席がありましたが、それ以外の日にはなかったこともあり、もっと近くで見たいという意見もありました。

最後に、2000年を迎え、ハンドボールが今まで以上に発展していくためにも、観客もプレイする選手も一体化できる魅力ある大会づくりを全日本総合選手権大会だけでなく国内全ての大会に期待したいと思います。

平成11年度　登録一覧表

1999．9．30 現在

	県名	一般L		一般A		学生		高専		高校		中学		小学生		リージョナル		合計	
		チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数
1	北海道	0	0	22	273	22	339	0	0	59	930	17	254	4	70	10	142	134	2008
2	青　森	0	0	13	204	4	66	1	18	23	382	2	35	0	0	0	0	43	705
3	岩　手	0	0	11	161	4	58	1	22	45	950	32	867	0	0	15	190	108	2248
4	宮　城	0	0	11	141	11	196	2	48	47	969	0	0	0	0	2	42	73	1396
5	秋　田	0	0	7	111	2	23	1	15	12	231	0	0	2	57	0	0	24	437
6	山　形	0	0	6	97	1	19	0	0	18	333	2	33	2	19	1	14	30	515
7	福　島	1	19	8	101	3	34	0	0	37	520	0	0	0	0	0	0	49	674
8	茨　城	0	0	12	184	4	62	0	0	60	834	25	574	5	101	4	51	110	1806
9	栃　木	1	13	4	65	2	20	0	0	23	384	18	445	0	0	3	33	51	960
10	群　馬	0	0	8	132	0	0	0	0	19	323	18	379	1	77	1	11	47	922
11	埼　玉	2	36	20	305	7	77	0	0	103	1544	35	803	1	20	0	0	168	2785
12	千　葉	0	0	10	160	10	160	0	0	60	855	27	450	3	55	16	224	126	1904
13	東　京	1	17	17	327	42	684	3	53	149	1588	28	435	1	10	44	843	285	3957
14	神奈川	0	0	15	223	12	182	0	0	153	2180	63	965	0	0	23	326	266	3876
15	山　梨	1	20	4	80	5	54	0	0	29	552	19	385	3	73	10	139	71	1303
16	長　野	0	0	6	79	4	61	1	25	12	230	4	93	0	0	0	0	27	488
17	新　潟	0	0	7	121	3	44	0	0	28	393	15	343	0	0	0	0	53	901
18	富　山	1	16	13	166	4	55	1	16	33	495	36	769	12	183	0	0	100	1700
19	石　川	1	22	7	125	4	54	1	15	28	400	0	0	0	0	2	21	43	637
20	福　井	1	14	5	58	2	29	1	26	19	351	14	357	8	92	3	41	53	968
21	静　岡	0	0	14	182	6	63	1	14	48	1019	6	173	0	0	0	0	75	1451
22	愛　知	5	88	14	215	25	419	1	35	256	4701	172	3750	7	210	0	0	480	9418
23	三　重	2	34	12	171	2	26	2	32	36	547	28	580	5	87	0	0	87	1477
24	岐　阜	0	0	19	285	6	73	1	15	61	1099	56	1385	0	0	0	0	143	2857
25	滋　賀	0	0	7	118	3	39	0	0	22	437	14	460	1	14	5	51	52	1119
26	京　都	0	0	10	145	14	171	1	10	40	619	15	304	0	0	18	193	98	1442
27	大　阪	2	28	14	189	25	373	1	14	118	1394	15	311	0	0	3	38	178	2347
28	兵　庫	0	0	8	117	14	164	1	13	93	1343	32	831	4	73	11	158	163	2699
29	奈　良	0	0	7	98	5	64	1	12	26	408	22	378	4	71	0	0	65	1031
30	和歌山	0	0	6	86	4	52	1	21	23	373	18	382	0	0	4	36	56	950
31	鳥　取	0	0	3	45	1	12	1	22	15	226	6	134	0	0	1	13	27	452
32	島　根	0	0	3	43	1	8	1	17	10	192	0	0	0	0	0	0	15	260
33	岡　山	0	0	16	212	7	99	1	16	55	1010	13	304	3	79	1	8	96	1728
34	広　島	2	30	3	63	6	85	1	18	23	330	9	185	1	41	4	51	49	803
35	山　口	1	14	12	189	1	18	2	40	36	687	22	541	2	79	2	29	78	1597
36	香　川	0	0	4	56	3	36	0	0	23	405	25	475	3	53	0	0	58	1025
37	徳　島	0	0	3	40	0	0	0	0	8	110	0	0	0	0	0	0	11	150
38	愛　媛	0	0	8	114	3	44	0	0	34	682	4	97	0	0	0	0	49	937
39	高　知	0	0	3	38	3	25	1	26	14	169	9	123	0	0	5	74	35	455
40	福　岡	0	0	9	120	15	280	2	45	53	934	19	355	0	0	0	0	98	1734
41	佐　賀	1	14	3	42	0	0	0	0	11	183	3	85	2	46	0	0	20	370
42	長　崎	0	0	7	112	2	21	0	0	31	655	18	427	3	40	0	0	61	1255
43	熊　本	2	42	2	31	4	46	2	37	54	1005	39	768	14	355	0	0	117	2284
44	大　分	0	0	7	103	2	20	0	0	19	271	12	192	14	192	1	16	55	794
45	宮　崎	0	0	4	51	2	16	1	21	37	545	21	306	8	135	5	66	78	1140
46	鹿児島	1	16	5	78	4	57	1	15	33	511	14	292	0	0	7	77	65	1046
47	沖　縄	0	0	9	126	4	57	0	0	67	1229	50	1321	0	0	16	257	146	2990
合計		25	423	418	6182	308	4485	35	661	2203	35528	997	21346	113	2232	217	3144	4316	74001

第8回ジュニアオリンピックカップ
8th JOC JUNIOR OLYMPIC HANDBALL CHAMPIONSHIP GAME
ハンドボール大会

大会を顧みて

大阪ハンドボール協会副会長　奥浜　清



第8回大会が12月25日～27日まで、3日間大阪府堺市立家原大池・堺市立金岡体育館の2会場で開催されました。各地区の予選を勝ち抜いた男女各12チームは開会式に参加して、日本ハンドボール協会・日本オリンピック委員会よりの激励の言葉、また、堺市長より歓迎の言葉がありました。この大会は、将来有望とされる選手の発掘・育成を目的として開催された事は言うまでもなく、友情、連帯感、フェアプレーの精神を相互に理解しあう若人を育てる事を目標としているとの激励の言葉を聞き、選手たちは明日からの今世紀最後の大会にむかって闘志・必勝を胸に抱き無事に開会式は終了しました。翌日より予選リーグの男女24試合が実施されました。決勝トーナメントに進出できないチームの中でも優勝した愛知と1点差の好ゲームをした男子沖縄選抜の敗戦が惜しまれる。最終日の観客は2000人を越え、関係者一同場内整理に汗だく。大会役員の皆様、特にオフィシャル等をボランティアでお手伝い願った、中・高校生ありがとうございました。21世紀に向かって前進／ハンドボール愛好者の輪を広げよう。

大会結果

【男子の部】

■予選リーグA組

山梨県選抜　22（12—8／10—10）18　広島県選抜

富山県選抜　26（13—8／13—12）20　広島県選抜

山梨県選抜　25（11—7／14—13）20　富山県選抜

［順位］①山梨県選抜②富山県選抜③広島県選抜

■予選リーグB組

兵庫県選抜　29（12—7／17—7）14　北海道選抜

三重県選抜　38（15—5／23—12）17　北海道選抜

三重県選抜　18（10—9／8—4）13　兵庫県選抜

［順位］①三重県選抜②兵庫県選抜③北海道選抜

■予選リーグC組

愛知県選抜　31（16—6／15—17）23　山形県選抜

沖縄県選抜　37（21—11／6—15）16　山形県選抜

愛知県選抜　21（12—7／9—13）20　沖縄県選抜

［順位］①愛知県選抜②沖縄県選抜③山形県選抜

■予選リーグD組

大阪府選抜　23（11—6／12—6）12　香川県選抜

神奈川県選抜　15（10—4／5—10）14　香川県選抜

大阪府選抜　29（17—9／12—7）16　神奈川県選抜

［順位］①大阪府選抜②神奈川県選抜③香川県選抜

■決勝トーナメント

〈準決勝〉

三重県選抜　16（5—7／11—8）15　山梨県選抜

愛知県選抜　23（11—9／12—10）19　大阪府選抜



◀大阪府選抜男子チームのエース藤原直人君

〈決勝〉

愛知県選抜　19（10—6／9—11）17　三重県選抜

【愛知県選抜】得点	氏名	番号	【三重県選抜】番号	氏名	得点
0	中本	1	1	高木	0
8	西村	2	2	小坂	0
1	中島	3	3	千種	2
0	上野平	4	4	林	2
0	大山	5	5	大森	6
1	竹内	6	6	森本	0
3	小栗	7	7	草野	5
1	飯高	8	8	北川	0
0	加藤	9	9	尾崎	0
2	伊藤	10	10	芝山	1
3	東	11	11	川島	0
0	吉武	12	12	後藤	0
0	小栗	13	13	西川	0
0	鮫島	14	14	伊藤	0
0	石橋	15	15	樋口	0
0	松本	16	16	伊藤	1
19 計	（レフェリー・小林一夫・土屋雅男）				計 17

（戦評）東海勢同士の決勝となった男子。開始早々、愛知は西村のミドル、7mスロー、速攻等で4点を先取。一方、三重は草野のステップ、大森のミドルで応戦するものの、愛知はGK中本を中心としたディフェンスが頑張り、攻撃では東らのロングシュートが小気味よく決まり、10—6で愛知4点リードで前半を終了した。後半、愛知は西村のロング、ミドルで着実に加点。

三重も大森・草野を中心に追い上げ、残り3分で1点差に詰め寄るものの、僅かに及ばず19—17で愛知の勝利。双方GKの堅守が光ったゲームであった。

【女子の部】

■予選リーグA組

山口県選抜 16（8—5／8—9）14 岐阜県選抜

沖縄県選抜 22（12—8／10—12）20 山口県選抜

沖縄県選抜 21（9—5／12—8）13 岐阜県選抜

［順位］①沖縄県選抜②山口県選抜③岐阜県選抜

■予選リーグB組

京都府選抜 22（13—3／9—3）6 北海道選抜

茨城県選抜 33（16—2／17—5）7 北海道選抜

京都府選抜 19（8—11／11—7）18 茨城県選抜

［順位］①京都府選抜②茨城県選抜③北海道選抜

■予選リーグC組

愛知県選抜 16（10—1／6—10）11 香川県選抜

富山県選抜 30（18—4／12—7）11 香川県選抜

愛知県選抜 15（8—7／7—5）12 富山県選抜

［順位］①愛知県選抜②富山県選抜③香川県選抜

■予選リーグD組

大阪府選抜 28（13—3／15—9）12 岩手県選抜

岩手県選抜 22（12—7／10—9）16 埼玉県選抜

大阪府選抜 29（15—5／14—5）10 埼玉県選抜

［順位］①大阪府選抜②岩手県選抜③埼玉県選抜



◀2年連続3回目の優勝 大阪府選抜女子チーム

■決勝トーナメント

〈準決勝〉

沖縄県選抜 21（13—7／8—11）18 京都府選抜

大阪府選抜 19（9—5／10—4）9 愛知県選抜

〈決勝〉

大阪府選抜 25（15—8／10—9）17 沖縄県選抜

【大阪府選抜】			【沖縄県選抜】		
得点	氏名	番号	番号	氏名	得点
0	小川	1	1	金城	0
5	津村	2	2	儀間	0
2	三浦	3	3	東	5
0	倉本	4	4	仲宗根	0
0	武藤	5	5	東濱	3
2	柏原	6	6	斉藤	0
8	植垣	7	7	佐久川	5
3	市村	8	8	山内	0
0	野崎	9	9	安谷屋	0
5	山根	10	10	玉寄	1
0	小林	11	11	木村	3
0	河崎	12	12	田名	0
0	松島	13	13	饒平名	0
0	西丸	14	14	山田	0
0	矢野	15	15	東長濱	0
0	芦田	16			
25	計（レフェリー・奥田正俊・丸谷謙二）計				17

（戦評）立ち上がりは、両チームとも一進一退の攻防が続いたが、前半8分過ぎに相手のシュートミスを大阪が速攻につなぎ、3ポイント連取。その後植垣にボールを集め、ロング・ポスト・サイドシュートなど多彩な攻撃で加点し15—8で終わる。後半に入り、沖縄も速攻から相手ディフェンスを揺さぶり勝機を狙うが、大阪の堅い防御を崩しきれず25—17で大阪の勝利に終わる。

〈表彰〉

【男子の部】

オリンピック有望選手	GK	高田 朋幸	（三重）
最優秀選手	CP	西村 啓太	（愛知）
優秀選手	GK	後藤 真希	（三重）
〃	CP	平原 近康	（沖縄）
〃	CP	武井 僚也	（山梨）
〃	CP	谷口 雄二	（大阪）
〃	CP	小西 俊平	（大阪）
〃	CP	伊藤 渉	（愛知）
〃	CP	大森 優介	（三重）

【女子の部】

オリンピック有望選手	CP	植垣 暁恵	（大阪）
〃	CP	山根 有加	（大阪）
最優秀選手	CP	津村 仁美	（大阪）
優秀選手	GK	河崎 晴香	（大阪）
〃	CP	柏原 華奈	（大阪）
〃	CP	本村 美香	（沖縄）
〃	CP	仲宗根 彩	（沖縄）
〃	CP	尾崎 由佳	（山口）
〃	CP	片山奈津江	（愛知）
〃	CP	上村 幸子	（京都）

㈶日本中学校体育連盟ハンドボール部の紹介及び活動内容

㈶日本中学校体育連盟ハンドボール競技部長 佐々木英明

私は、日本中学校体育連盟の中のハンドボール競技部長として昨年10月より任命を受け職務を遂行してまいりました。競技組織は、日本中体連より担当理事として、吉村英雄氏、競技部長、そして、全国9ブロックの委員長（北海道）高原 健、（東北）佐藤嘉宏、（関東）野口節朝、（北信越）清水健太郎、（東海）溝口博一、（近畿）本人、（中国）河村康男、（四国）佐賀厚幸、（九州）本部圭一郎のメンバーで組織されています。

活動内容は、夏の全国中学校ハンドボール大会の競技運営と各試合の立会人を行い、12月のＪＯＣジュニアオリンピックカップハンドボール大会では協会の強化部・普及部と協力して、競技運営や立会人を行っています。

各ブロックにおいては、大会はもちろんのこと各都道府県の報告・情報等を把握し連絡を密にして全国の中学校ハンドボール部が一つになれるように日々、活動して参りました。また、中体連ハンドボール部とハンドボール協会が手を取り合って、協力し活動していくことが今後の中学校での普及・強化につながると思います。まだまだ、組織的にも活動内容においても完璧ではございませんが、今後一層の努力を重ねて行きたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

中学生に対するレフェリングについて（事故防止や安全対策を重視）

財日本中学校体育連盟ハンドボール競技部審判長　**溝口博一**

はじめに、中学生におけるレフェリングの重要性について述べます。

中学生のハンドボールの試合には、このスポーツを通して我が子の成長ぶりを実感したいという保護者や、練習の成果を見届けたいという学校関係者が数多く応援に来られます。しかし、こうして応援に来られる方々の中には、ハンドボールというスポーツをあまり身近に感じていない人達も数多く含まれるのが現状です。

このように、たくさんの方々が応援に来られるということは、一つのスポーツをアピールするには大変有効だと思います。

ここで重要なことは、このような条件が揃っていても、観客に対してこのスポーツを強く印象づけるものがなければ発展にはつながらないということです。

そこで、ハンドボールというスポーツの発展につなげるためには、プレイばかりでなくレフェリングをも印象づけることが必要になってくると思います。

初めてハンドボールを見る人々にとってレフリーのジェスチャー、レフェリングは注目の的となるでしょう。それ故に、このレフェリングの魅力や適否が、ハンドボールの人気を高いものにするか、低いものにするかの分かれ目であるといっても過言ではないと思います。ましてや、心身ともに発育・発達の途上にある中学生に対してのレフェリングは注視されると思います。

さて、それでは本題に入ります。

中学生は心身ともに未発達です。そのため、身体接触を有するプレイを、単にルールブック通りに処理していくことは危険が伴うことが予想されます。

そこで、ルールを変えるのではなく、以下のように適用範囲を拡大解釈して選手の健康安全を最大優先に考えることが必要であると思います。

例えば、ゴールキーパーや、防御者の顔、頭部、腹部、急所等にボールが強打した場合は、ボールの行方を見届ける前に、まず選手の安全を確認、確保することに全力を注ぐことです。さらに、ここから先の手順がもっとも重要です。それは、まずレフリータイムを取り、すぐさまコートの中へ監督、ドクターを入れます。そして、選手の状況を把握し対応します。また、けがをしている可能性があると思われるときもレフリータイムを取り、選手の状況を把握します。そして、プレイが続行できるかどうか本人に確認するとともに監督にもこのままプレイを続行させてよいかどうかを尋ねる等、教育的配慮が必要です。

次に、アドバンテージをどこまで見ていくかです。見過ぎてしまい、けがにつながったり、次の反則を誘発してしまったりすることを避けることが必要となってきます。

そのためには、両チームの選手の体格、動き等を十分に把握することです。特にその差が大きい場合には、そのアドバンテージをどこまで認めていくかがポイントであると思います。

そこで、けがにつながりやすいプレイについては、そのプレイを長く見すぎないように心掛け、早めに笛を吹くことが肝要です。

終わりに、レフェリングによって、将来のある中学生や中学生をとりまく人々がハンドボールに対する興味や関心を強く持つことができるようにすることが最も重要であると思います。具体的には、負傷が予想されるときや倒れているときの選手に対する対応が素早く行われれば、レフリーに対する、しいては、ハンドボールというスポーツに対する信頼感が応援保護者、学校関係者に高く印象づけられるとともに、イメージアップにつながっていくと思います。また、この中学生という時期だからこそ、レフェリングによってハードプレイとラフプレイの違いをはっきりと認識させ、「相手の身体を傷つけることなく、チームに本来のプレイを行う正当なチャンスを与えることである」というルールの精神を培わせることで、クリーンなハンドボールの実現につなげていくことが必要だと思います。

以上のような中学生に対するレフェリングを心掛けることは、日本のハンドボールの基盤づくりを確実なものにし、その積み重ねが将来、世界にアピールできる日本のハンドボールへと発展していくものと思います。

第51回全日本総合ハンドボール選手権大会（女子の部）組み合わせ決まる

本年度は年末に女子世界選手権大会が行われた関係上、全日本総合は男女別開催となった。１月13日に神奈川県を会場に行われる女子全日本総合の組み合わせが行われ、以下のような組み合わせとなった。日程は２月17日(木)〜20日(日)で、会場は１回戦、国際プール、平沼体育館、２回戦、国際プール、準決勝・決勝は文化体育館で行われる。

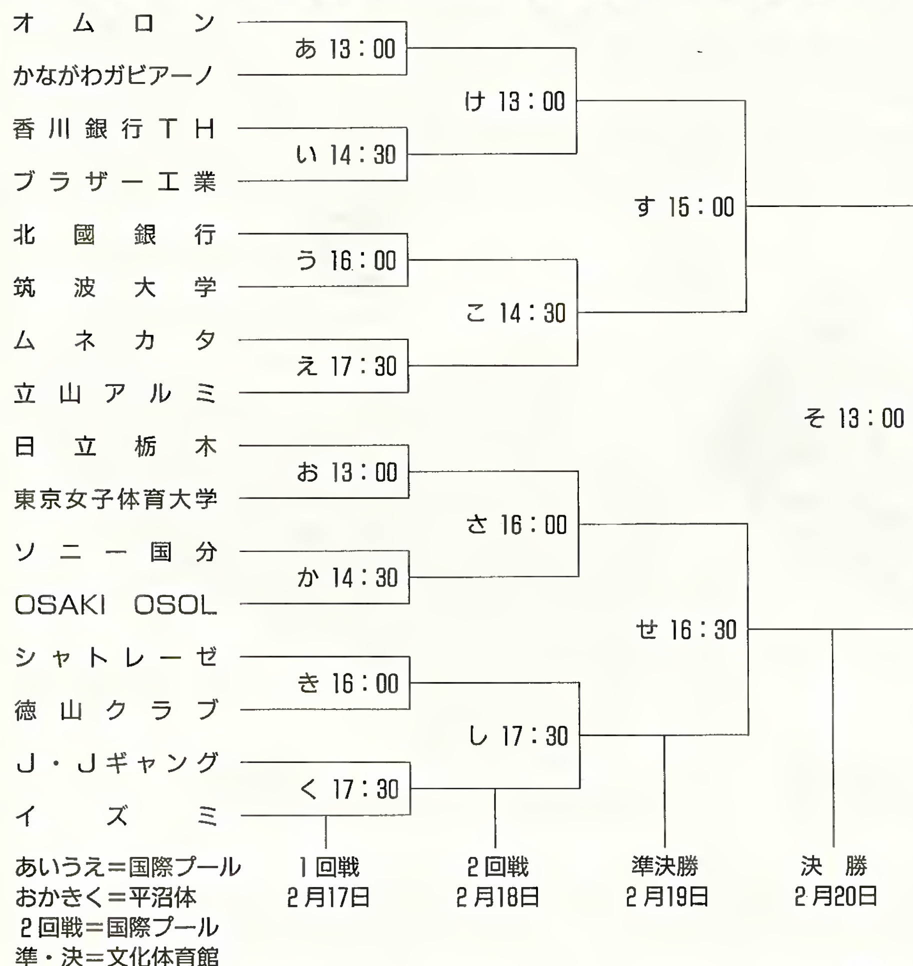
参加資格は、平成11年度に一般Ｌ、一般Ａ、学生の登録したチームと個人である。出場枠は日本リーグ８、日本協会推薦４、全日本学生２、ジャパンオープン２の合計16チームに与えられる。

大会は日本リーグ上位８チームがシードされ、これらのチームに対して、日本協会推薦、全日本学生、ジャパンオープンの各カテゴリーの代表が挑戦する形となる。更に、同じカテゴリーのチームは準決勝まで当たらないように配慮した。

ゲームは日本リーグ上位中心の展開が予想され、日本リーグ、レギュラーシーズン１位のイズミがプレイングマネージャー林を中心にリーグに続いて連覇を狙うだろう。日本リーグ２位の北國銀行も３月のプレーオフに向け全日本のタイトルを取って弾みをつけたい。また、今シーズン限りでリーグの活動を停止することの決まっているOSAKI OSOLはレギュラーシーズン後半８連勝、唯一イズミに勝ち点をあげて波に乗りチーム創設39年の伝統の力を見せて欲しいところである。

昨年優勝のオムロンはリーグ６勝５敗とプレイオフ出場権は逃したもののディフェンディングチャンピオンとして第１シードの意地を見せてほしい。立山アルミ、ブラザー工業、日立栃木、シャトレーゼ、ソニー国分、ムネカタにも日本リーグ勢の力を発揮してもらいたい。また、今大会には昨年で活動を停止した名門の大和銀行、ジャスコの姿が見られないのが残念である。

大学４年生にとっては、学生として本当に最後の舞台となる今大会でチャレンジャーとして臨んでもらいたい。筑波大学は、ここ数年学生界では他を寄せつけない強さを誇り、本年度の「第19回日本スポーツ賞」の競技団体別優秀賞を獲得した力で臨んでほしい。インカレ２位の東京女子体育大学もここ数シーズン筑波大に水を空けられた感があるが往年の力を見せてもらいたいところである。ジャパンオープン勢では優勝した徳山クラブ（山口）がジャパンオープン２連覇の力通りのゲームができれば初戦突破をねらいたいところである。かながわガビアーノ（神奈川）も本大会の常連で、今回は地元ということもありチームとしても力が入るであろう。初戦から前年チャンピオンにあたってしまうが全力で挑戦してほしい。日本協会推薦枠からはＪ・Ｊギャング（福井）がジャパンオープンの成績から、香川銀行ＴＨ（香川）は実業団連盟の推薦によりエントリーされた。共に総合初出場であり、力強いゲームが期待できよう。



「初の異競技連携に期待」

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

ミレニアム、2000年を控えた昨年暮れのことだった。広島市内で将来の日本スポーツ界の姿を占う初の会合が開かれた。地域との共有化での発展を掲げるＪリーグの呼びかけに賛同した４競技団体が一同に介したもので、日本オリンピック委員会理事でもある日本ハンドボール協会の市原則之専務理事をはじめ、サッカー、バレーボール、バスケットボールのリーグを運営する団体が意見を出し合った。

景気低迷から企業スポーツは現在、厳しい環境にさらされている。ハンドボール日本リーグ女子も、来季からすでに廃部が決まっている大和銀行のほか輝かしい戦績を誇る大崎電気、ジャスコが活動を休止するという。バスケットボールも例外でなく、数社が今季限りでの撤退を表明している。厳しい不況の嵐が、容赦なくスポーツの世界に吹きつけている現状は、もう避けて通れない。

そもそもわが国のスポーツは欧米とは異なる形で発達してきた。いわゆる学校スポーツ、そして企業へのオンブにダッコである。これがいま不況という嵐に巻き込まれ、リストラの標的にされたといえよう。

そうしたなか、今回の４競技団体の日本スポーツ再建へ向けての会合は意義がある。これまでの競技団体ごとの垣根を越え、それぞれの枠を取り払って積極的に交流を図っていこうという取り組みは、将来の日本スポーツの姿を先取りしたものである。

やはり今後の日本スポーツ界は、地域にどう密着し、手を携えていくかが重要である。住民の中に溶け込み、市民スポーツを土台として発展が図られるべき姿に変わっていかざるを得ないだろう。

今回の会合では、今年の出来るかぎり早い時期に、地元のチーム、競技団体、さらには自治体を加えて実務レベルの話し合いを重ねて、活動内容などを詰めることになっている。縦軸から横軸を伸ばしての生き残り作戦と言ってもいいかもしれない。住民にスポーツを正しく認識させることにもつながるかもしれない。

日本スポーツの意識革命と位置づける初めての異競技連携は、まさに画期的な試みである。しかし、これが掛け声だけで終わってはあまりにも寂しいし、影響は大きい。せっかくのきっかけだけに、その芽はみんなの努力と熱意ででっかく育てたいものである。

今回集まった４競技団体のリーグがすべてそろっており、プロ野球も持つことから選ばれたモデル都市「広島」の果たす役割、責任も重大である。手を携えての日本スポーツ界再建へ、各競技団体はもちろん日本国民全部が注目しなければならない「重大」な出来事といってもいいだろう。ハンドボール協会が主導権を握って、ぜひとも成功に導いてもらいたいものである。

ANA

※貯めたマイルは、航空券に換えてからご利用ください。

ANA
ANA MILEAGE CLUB
012 345 6789
RICK LEDGER

PICK ME UP!
ENOUGH MILES!!

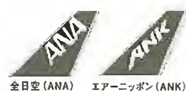
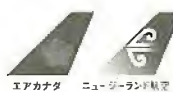
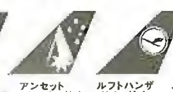
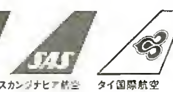
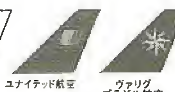
The MILEAGE of MILEAGES

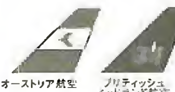
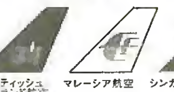
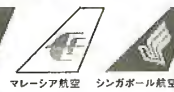
ネットワークがひろがって、マイルがさらに貯めやすく、使いやすくなりました。

今、全日空の空が大きく広がろうとしています。充実した国内線はもちろん、国際的な航空会社ネットワーク「スターアライアンス」への加盟により、国際線もさらに拡大。マイレージも、ぐっとワイドに貯まります。選ぶなら、やっぱり「ANAマイレージクラブ」。貯めやすさが断然ちがいます。

*スターアライアンス加盟の提携エアライン

*スターアライアンス以外の提携エアライン



全日空（ANA） エアーニッポン（ANK） エアカナダ ニュージーランド航空 アンセット オーストラリア航空 ルフトハンザ ドイツ航空 スカンジナビア航空 タイ国際航空 ユナイテッド航空 ヴァリグ ブラジル航空

オーストリア航空 ブリティッシュ ミッドランド航空 マレーシア航空 シンガポール航空 スイス航空

ANAマイレージクラブ

10月31日 全日空は、スターアライアンスに加盟。世界112ヶ国以上、760以上の都市をネットワークで結びます。

列島縦断 【栃木県の巻】

県協会52年の歩みと21世紀へ向けての飛躍

栃木県ハンドボール協会副理事長　高崎　弘



昭和20年代

本県ハンドボールを語るには、故渡辺繁先生、細井操先生のお二人を除いて語ることはできない。

高校生を主体としたチームづくりという創生期から３年間の短期間で初期の結果を生んだ卓越した指導力は関係者の一人として他に誇れる事象である。即ち昭和24年の第１回関東大会に足利高が出場し準優勝、昭和25年第１回全日本高校選手権大会（藤井寺競技場）でやはり足利高が見事優勝、高松宮賜杯を本県にもたらし、更に同年の第５回愛知国体においても高校男子の部で優勝「二冠王」に輝いたことは本県ハンドボール界にとってすばらしい歴史の１ページである。

これらの偉大な実績は女子高にも大きく影響し、特に足利女高においては第４回東日本大会、昭和27年インターハイ共に３位入賞を果たし、同年の第７回福島国体において準優勝に輝く活躍を見せた。また同国体において一般男子も準決勝進出を果たした。このように本県ハンドボールの幕開けはすばらしいものであった。

昭和30年代～40年代

この年代は高校生の活躍に終始し、この頃から高校男女の勢力分布が変化してきた。即ち男子は国学院栃木高、小山南高、女子も昭和40年代前半まで栃木女高の独壇場であり、数々の記録を樹立していた時代であり、40年代後半に国学院栃木高が台頭し、両校の間で覇を争う時代であった。

昭和50年代～60年代

50年代に入り、昭和55年第35回栃の葉国体に向け選手強化に専念し優勝を目指し滝沢会長を筆頭に努力研鑽に励んだ。

その結果、男女総合成績１位、女子総合成績１位を果たすことができた。ハンドボール競技においても成年女子(日立栃木)、少年男子がそれぞれ念願の優勝を果たし、成年男子、少年女子がそれぞれ上位入賞をし、ハンドボール競技の総合優勝を果たせたのである。

50年代後半から60年代にかけては教職員チームの活躍が光る。山下勝司氏（現副会長）を中心とした教職員が一丸となって、研鑽を重ね「栃の葉クラブ」として、栃の葉国体をはさんで、17年間（平成２年まで）全国大会での上位進出を果たし、56年より３年間連続優勝し、特に57年には男女優勝の偉業を成し遂げていることは、本県ハンドボール史上に明るい１ページを残した。

また本県唯一の日本リーグ加盟チーム「日立栃木」が昭和50年、伊藤監督のもとに編成され、日本リーグの中核として現在も健在であることは本県ハンドボール競技の灯を絶やさないためにも欠かせない存在である。

時も同じくして「東日本医薬学生大会」に本県では自治医科大学が出場、阿部徳之助監督（現副会長）の指導のもと51年より平成10年までの23年間トップの座にあり優勝17回、準優勝５回という成績を残している。

中体連についても52年、南犬飼中（女子）を筆頭に大平中、吹上中（男女）が、60年以後は国分寺中、南犬飼中、岩船中、大平南中の活躍が目をひき、男子チームも石橋中、野木二中、東陽中が活躍しているが、現在は実力伯仲といえる。

小学生の関東大会も60年より開催され、本県小学生チームのレベルについては、当初の頃高い評価を受けながら現在は「少子化」「指導者不足」等により小中高共に部の存続の危機を痛感しながら現在にいたっている状況である。

将来に向かっての飛躍のために

過去50年を総括してみると、昭和60年以後については、全体的に女性上位になっている。しかしこれも平成に入ってからは男女とも関東大会での不運な結果に終わっている。

このうち男子高だけを見ると63年の小山西高、平成５年に作新学院高、平成８年以後に宇都宮清陵高、宇都宮東高など13～15チームが県内上位を目標に意気盛んであるのが救いである。高校女子については、56年創部の栃木商高、次いで小山西、栃木南、鹿沼商工、宇都宮文星女子の各高校の加入により男子校同様上位争いに拍車をかけるようになった。

栃の葉クラブも選手の交代時期になり、山下勝俊氏（鹿沼商工高）を中心に若い力がまとまりつつあり、往時の記録に挑戦すべく頑張っている。一方、日立栃木の存在は本県ハンドボール界にとってバックボーン的存在であり、「優勝」の二文字に向かって建て直しを図っている。このことで中・高体連の各チームが刺激を受けて部員の確保拡大を図りながら、指導者の育成と練習時間の効率的活用が当面の課題である。併せて、成年男女も含め技術の修得向上と共に選手一人一人の気概を期待している。そのためにも指導者研修会の開催と関係機関との連携をとりながら後継者の育成と選手層の開発拡大が必要になってくる。

このような諸々の必要条件を満たすためにも競技としての魅力を一人でも多くの県民に知ってもらうよう、希望をもって日々精進することが21世紀へ向けてのステップアップにつながるものと信ずる。

京で発祥の車いすハンドボール 10回記念大会



京都府ハンドボール協会副会長　小西　博喜

＜総評＞

紅葉深まる都大路、京都市障害者スポーツセンターに於て、去る11月28日、京都障害者スポーツ振興会、京都新聞社社会福祉事業団など主催の第10回全京都車いすハンドボール大会が開催された。

車いすハンドボールは、障害者のために京都で考案されたスポーツ。競技会場では、障害者の皆さんが車いすを自在に操作しながらスピーディーなコンビプレーでボールを追いかけ、また少しでも健常者の人達にも理解を得るため、障害のない人もまじって競技を展開した。

車いすハンドボールは、昭和63年に京都で開催された第24回全国身体障害者スポーツ大会を契機に、京都府ハンドボール協会との協力で、同振興会が考案したものである。大会は、「障害のある人々のスポーツの日常化を図るとともに、車いすハンドボールの普及と障害者の皆さんの交流に」を目的に、平成２年から毎年11月下旬に開催している。この大会には、一般の部（１部）に８チーム、ジュニアの部（２部）に５チーム計13チームが参加。開会式では大会会長の内山茂生同振興会長が「さわやかな汗を流して下さい」と、選手達を激励された。



競技は６人制（コートプレーヤー５名、ゴールキーパー１名)、コートは縦12メートル、横24メートルで、ゴールは高さ128センチ、横140—153センチ。ボールは直径16—18センチの柔らかいボール（KENKO soffi 160, KENKO SOFTI BALL Made in Sweden Nagase Kenko Corporation)を使用。選手は健常者を一部含んでもよいルールを採用。全員健常者の西宇治高ゴールドメイクス（監督西澤金作・京都府ハンドボール協会理事）や京都日吉ケ丘ライオンズクラブはオープン参加で、15分ハーフで予選リーグと決勝、３位決定戦を行った。

車いすハンドは、敏捷性や連携プレーが要求されるほか、チームワークが基本であるスポーツ。パスワーク、シュートなども変化が激しく、ゴール前の攻防から放つシュートは迫力満点である。長岡車いすWHCチームは、予選リーグ初戦であやべランニングスターズと対戦。10—３で勝ったが、２試合目は動きの速いドリーマーズ（宮津市）に３—24と大敗した。最高齢の梅田由雄さん(76才)＝長岡京市は、脊髄損傷で20年ほど前から車いす生活を送っており、６年前から車いすハンドボールを楽しんでおられる。この日は初戦でシュートを決めたが、「シュートが決まった時の気分は最高。２試合は負けたが、楽しい一日だった。自宅から外に出て、人に会うことは楽しいので、元気な限り車いすハンドを続けて行きたい」と、笑顔で語って貰った。

車いすハンドは、京の地で確実に定着したが、全国的にはまだまだ皆無に等しい。各都道府県協会組織ぐるみの取り組む創造が欲しい。まず日韓台の三国交流親善を模索してみたい。来年へのアジア地区目標の課題としておこう。

【最終順位】

部門＼順位	第１位	第２位	第３位
一部	ドリーマーズチーム（宮津市）	HAND IN HAND チーム（南区）	やつさもつさチーム（左京区）
二部	KURETAKE チーム（伏見区）	よさのうみ養護学校チーム（与謝郡岩滝町）	サン・アビ城陽陸上部チーム（城陽市）
敢闘賞	京都日吉ケ丘ライオンズクラブチーム（東山区）		サン・アビ城陽陸上部山中泰紀（城陽市）

【対戦表】

I部〈予選リーグ〉

Aグループ

西宇治高校	12—19	HAND IN HAND
HAND IN HAND	18—12	ブルーマーズ
ブルーマーズ	9—3	日吉ケ丘ＬＣ
日吉ケ丘ＬＣ	19—8	西宇治高校

Bグループ

あやべランニング	3—10	長岡ＷＨＣ
長岡ＷＨＣ	3—24	ドリーマーズ
ドリーマーズ	24—5	やつさもつさ
やつさもつさ	18—8	あやべランニング

決勝：HAND IN HAND 11 — 32 ドリーマーズ

3位：日吉ケ丘LC 16 — 17 やつさもつさ

II部〈予選リーグ〉

Aグループ

林家一門	0—12	サンアビ
サンアビ	12—14	KURETAKE
KURETAKE	11—1	林家一門

Bグループ

笑福亭一門	4—9	よさのうみ

決勝：KURETAKE 17 — 8 よさのうみ

3位：サンアビ城陽 12 — 10 笑福亭一門

ハンドボールフォーラム21より

基調講演 スポーツ界の構造改革

(財)日本サッカー協会理事　浅見　俊雄

平成11年7月17日、東京・大久保駅前のホテル海洋で開催された、「ハンドボールフォーラム21」(主催：日本ハンドボール協会) における日本サッカー協会の理事、浅見俊雄先生の基調講演をここに紹介させて頂きます。

(文責：機関誌委員会)



日本におけるスポーツ文化

平成元年の保健体育審議会の答申で、文部省はスポーツ文化について初めて述べた。しかし、文化庁の中を占めているのはほとんどが芸術であり、スポーツというものは未だ入ってはいない。一体我々は文化というものをどのように捉えればよいのだろうか。文化というものを「自然ではなかったもの、人間が進化発展してくる中で自然界に無かったものを新しく作り、それを継承してきているもの」と捉えるとスポーツはまさしく文化であるといえる。つまり、日本におけるスポーツの置かれてきた立場は他の科学技術や芸術に比べて非常に弱く、評価を受けにくいものであったといえる。近代スポーツが明治以降に日本に入ってきて100年以上経つが、諸外国と違う独自の発展を遂げてきたわが国のスポーツ文化が、国際競技力というグローバルな視点に立たされた今、そのあり方を問われている。

日本のスポーツの現状

日本スポーツの特徴：近代スポーツが日本でどのように根付いたかというと、体操と呼ばれた学校の一教科と運動部という課外スポーツの中であった。そこでは運動を通して精神を鍛えるという、日本スポーツの特徴である精神修養的な役割を持たされた。戦前まではいわゆるエリート教育の一つであったスポーツは、教育制度の変遷と大学進学率の上昇に伴って次第に大衆化していった。その一方で、知的教育ではレベルの向上と詰め込み教育の受験戦争がみられ、学校間の競争が激化した。それにより引き起こされてきたのはスポーツと知識教育の二極分化と勝利至上主義だったのではないだろうか。子供のときから勝利を目指し、各学校段階で優秀な選手をスカウティングしていく。長期における一貫した指導体制が存在せず、その時点で出来高がいい選手が価値を持ち、その成長の可能性についてはほとんど考慮されていない。長期における一貫した指導体制は存在していない。決してそれは良い育て方ができる環境ではない。その点においてサッカー協会は20年前ぐらいからトレーニングセンター方式を導入し、その成果を最近出しつつある。

近年の子供のスポーツ：二極分化と勝利至上主義の影響か、近年における子供スポーツの傾向の一つに若年化がある。小学校にまでスポーツが降りてきていると同時に、そこから本格的なスポーツトレーニングを行い、勝利を目指すことが一般化してしまっている。さらに、スポーツをやっている子はものすごくやりすぎるが、やっていない子は学校の体育以外では何もやっていないこともあげられる。そういったスポーツをやろうとしない子の目をどのようにしてこちらに向けさせるかということも、これから取り組むべき課題であろう。

サッカー界の取り組み：日本サッカー協会はＪリーグの



発足以前から各クラブに、下までの組織の設置を義務づけて、長期にわたる一貫指導の仕組みを作ってきた。さらに、全国で各年齢層の選抜チームを編成し、それが一ケ所に集まって大会ではなく練習と試合を繰り返す。そこで、各レベル、各年齢層に応じたトレーニングを、選手だけではなく、それぞれの指導者も日本の中央の指導者と一緒になって勉強し、各地域にそれを持ち帰って練習をするというトレーニングセンター方式の導入を行ってきた。これらの仕組みが徐々に根付いてきたことが日本のサッカーが世界のトップレベルに近づいてきた理由であると思われる。

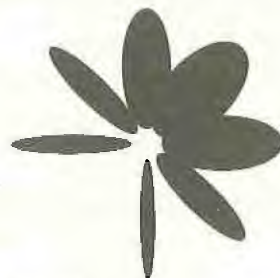
日本スポーツへの提言

構造改革：いわゆる競技スポーツ、課外スポーツというものは学校行事から離すべきである。日本のスポーツは学校中心のスポーツであったが、もともと文部省は体育という教科に必要な施設、教員しか準備していない。課外スポーツをやるだけの施設も教員も準備していないところで課外スポーツをやるというのは土台無理がある。ならば、放課後以降は地域社会の別の組織に場所を開放し、管理責任も指導者の確保もマネージメントもすべてそこに任せてしまうシステムを作るべきである。拠点を決めてそこに良い指導者をおき、学校の枠と年齢の幅を取り去る。そして、そこに集まってきた人数と能力に応じて、適当な単位でチームを組めばよいのである。運営費は各自治体と受益者の双方で負担し、中体連などとの関係でクラブチームの大会への参加が難しいのならば、サッカーのジュニアクラブ選手権や高円宮杯のように、協会が独自に大会を作ればいい。このようなクラブ組織において、各発達段階に応じて適切なトレーニングをさせれば、かなりレベルの高いプレイヤーを育てることも可能であろう。またそのマネージメントはスポーツ界に限らず、高い能力をもつ人であれば外部からどんどん招聘していくべきだろう。



最後に：ハンドボールはメジャーになる要素を多分にもつスポーツである。野球、サッカーが盛んだから盛んになれないというのは欧州の例を見ても間違いであることがわかる。サッカーにもマイナースポーツであった時代があるし、韓国やオルソン監督の例を見ても決して日本人に向いていないわけではない。指導者に大切なものは自信とやり方であり、情熱だけでなく、知識と情報収集能力が必要であるといえる。

※今回掲載しました基調講演に続き行われました、パネルディスカッション「スポーツ文化構築のために」は次回より連載いたします。



医科学委員会報告

全日本男子選手における急激な体重増加前後の外傷・障害の変化

三重大学整形外科　加藤　公

はじめに

男子ナショナルチームは1997年の熊本での世界選手権に向けて、様々な強化対策を行った。その一つとして体重増加に取り組んだ。大会での結果は、決勝トーナメント進出、フランスチームとの熱戦など一応の成果があったと考えられる。このように、ハンドボールでは、コンタクトプレーの球技であるために体力強化とともに体格の向上が求められ、体重を増加させる必要に迫られる場合がある。しかし、大幅な体重増加は下肢に大きな負担をもたらし、様々な外傷・障害を来しやすくすることが危惧される。そこで今回、体重増加前後でのスポーツ外傷・障害の変化を調査し、その特徴を明らかにするとともに、調査結果をスポーツ外傷・障害の予防対策に役立てたい。

対象と方法

1996年のハンドボール全日本男子ナショナルチームの選手25名を対象とした。年齢は23～31歳(平均24.7歳)、身長は172～200cm（平均181.8cm)、体重は68～96kg（平均83.5kg）であった。

このチームは、１年間で体格を世界レベルにするため、食事管理と体力トレーニングを行った。目標体重は95年世界選手権１位となったフランスチームの平均体重88.0kgとした。食事は１日約5000kcal（60kcal／１kg）を５回に分けて摂取させた。体力トレーニングとしてはウエイトトレーニングの他スプリント、ジャンプ、エアロビックトレーニングを週２回実施させた。

身長、体重、体脂肪率の測定を各年度に行い、外傷・障害の調査は２カ月に１回行った。

外傷・障害の重傷度はA（正常)、B－1（観察)、B－2（注意)、C－1（精査)、C－2（治療）の５段階で評価した（表1)。

外傷・障害を体重増加前（96年)、体重増加後（97年）で比較し、その特徴を調べた。

表1．重傷度評価（日本ハンドボール協会）

分類	管理	スポーツの実施制限
A（正常)	なし	全く問題なし
B-1（観察)	自己	自己管理しながらスポーツを続けてよい
B-2（注意)	指導者	指導者の管理下に注意しながらスポーツを続けてよい
C-1（精査)	医師	医師による精密検査が必要であり、スポーツは続けてよいが、練習に制限が必要なこともある
C-2（治療)	医師	医師による治療が必要であり、スポーツは一時中止する

結果

平均体重は96年83.5kgから97年87.9kgと１年で4.4kg増加し目標を達成しており、統計学的にも有意の増加といえ

図1　平均体重の比較

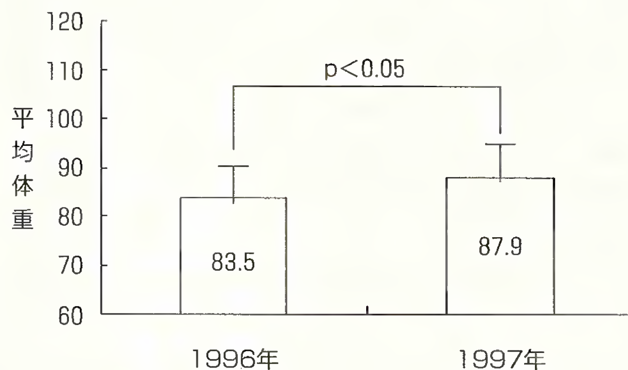


図2　平均体脂肪率の比較

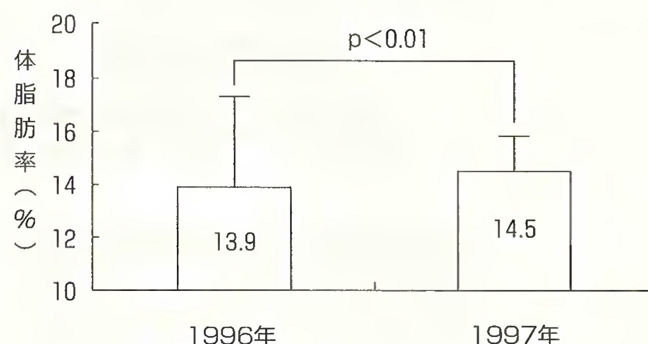


図3　外傷・障害の発生件数

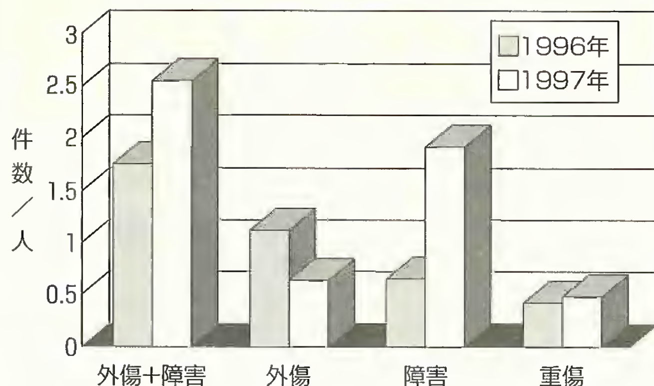
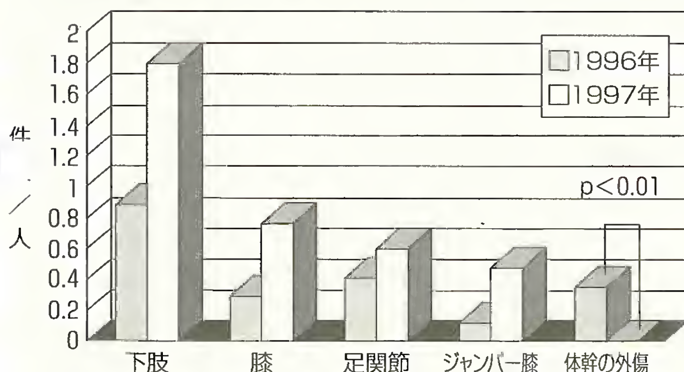


図4　部位別の外傷・障害の発生件数



た（P＜0.05）（図1）。平均体脂肪率も96年13.9％から97年14.5％と有意な増加を示していた（P＜0.01）（図2）。しかし平均体重の増加と平均体脂肪率の増加との間に有意な相関はなかった。

外傷・障害の1人あたりの発生件数は、96年1.76件から97年2.56件に増加していた。また、外傷だけでは96年1.11件から97年0.64件と減少しているのに対して、障害は96年0.65件から97年1.92件に増加していた。外傷・障害の重傷度については、C－1以上の重傷の発生件数が96年0.41件、97年0.48件と変化がなかった（図3）。

部位別の外傷・障害の1人あたりの発生件数の変化をみると、下肢、膝、足関節では、各々96年0.88件、0.29件、0.41件から97年1.80件、0.76件、0.60件に増加していた。特に、ジャンパー膝については96年0.12件から97年0.48件と4倍に増加していた。また、逆に体幹の外傷については96年0.35件から97年0件に減少していた（P＜0.01）（図4）。

更に、体重増加率（増加体重／体重）が平均値を大幅に上回った選手6名について、外傷・障害発生件数の変化をみてみると、体脂肪率の増加も平均値を上回った4名では、発生件数が平均以上に増加する傾向にあった。それに対して、体脂肪率の増加は平均以下であった2名では、発生件数は増加しない傾向にあった（表2）。

96年、97年の具体的外傷・障害名を（表3）に示す。

表2．体重増加率が大きかった選手の外傷・障害件数

	体重増加率（%）	体脂肪率の増加（%）	外傷・障害の増加件数	下肢の外傷・障害の増加件数
チーム平均	5.2	0.6	0.8	0.9
M.S*	6.4	0.9	4	3
A.M*	7.8	2.8	1	2
S.T*	10.3	2.4	1	1
Y.S*	12.9	1.8	6	4
T.K**	6.9	0.5	1	0
K.K**	10.0	0	0	－1

＊　体重増加率、体脂肪率の増加とも平均を大幅に上回っている選手
＊＊体重増加率は平均を大幅に上回っているが、体脂肪率の増加は平均以下の選手

考　察

体重とスポーツ外傷・障害の関係については、相撲や柔道で、体重の重い選手に下肢の外傷・障害が多く発生していると報告されている[2,3,4])。

当然、体重の増加も荷重による力学的な影響を及ぼし、筋・骨格損傷の危険因子の1つと考えられる。今回の調査でも、体重増加後に障害の発生件数が増える傾向を示した。また、部位別に見てみると、下肢の外傷・障害件数が増加し、特にジャンパー膝については、4倍の発生件数であった。これらの結果は、トレーニング、環境、個体などの要因が複雑に関与していると思われる[6])。しかし、急激な体重増加は、それらの中でも下肢障害の発生率の増加に強く影

表3. 外傷・障害名と件数

1996年

外傷		障害	
足関節捻挫	5件	腰痛疾患	3件
指脱臼・骨折・捻挫	4	投球肩障害	3
肋骨骨折	2	ジャンパー膝	2
手関節捻挫	2	その他	4
肩関節脱臼	2		
その他	2		

1997年

外傷		障害	
足関節捻挫	5件	ジャンパー膝	12件
指脱臼・骨折・捻挫	3	下肢肉離れ	6
手関節捻挫	2	投球肩障害	4
肩鎖関節捻挫・脱臼	2	膝内障	4
その他	4	腰痛疾患	4
		アキレス腱周囲炎	3
		足関節痛	3
		下肢筋肉痛	3
		下腿疲労骨折	2
		その他	7

響を与える要因であると考えられた。したがって、下肢障害の予防対策としては、必要以上に体重を増加させないことがあげられる。しかし、体重増加が著しかった選手のうち、体脂肪率の増加も著しかった選手に外傷・障害件数の増加が多く、体脂肪率の増加のほとんどなかった選手に外傷・障害件数の増加がなかったことから、体重を増加させる必要のある場合には体脂肪率を増やさないよう注意することが重要であると考えられる。したがって、練習内容として、ウエイトトレーニングを定期的に取り入れること、栄養摂取のタイミングとして、練習前には糖質を、ウエイトトレーニング直後にはタンパク質を中心に摂取することなどの工夫が必要となる。

体重増加は、スポーツ活動に悪い影響のみを与えるというわけではなく、コンタクトスポーツでは競技力を向上させる一面もある[7]。今回の調査でも体重増加後に、体幹の外傷の発生件数が有意に減少していたことと、外傷・障害発生件数は増加していても、その重傷件数に変化がなかったことは、選手がコンタクトプレーに強くなった結果であると考えることもできる。

まとめ

1）1年間で平均体重が4.4kg増加したハンドボール全日本男子チームで、体重増加前後のスポーツ外傷・障害の変化を調査した。

2）体重増加後に障害の発生件数が増える傾向を示した。

3）体重増加後に下肢の外傷・障害件数が増加し、特にジャンパー膝については、4倍の発生件数であった。

4）体重増加後に体幹の外傷の発生件数が有意に減少していた。

5）体重増加後も重傷件数には変化がなかった。

【文献】

1）Smith,A.M.et al.：Predictors of injury in ice hockey players.Am J Sports Med 25：500～507，1997.

2）土屋正光：力士の外傷・障害の現状―病院における力士の外傷・障害の検討．臨スポーツ医16：133～137，1999.

3）中川泰彰：学生相撲のスポーツ外傷・障害．臨スポーツ医16：171～175，1999.

4）米田實：女子柔道における外傷と障害．臨スポーツ医12：1353～1355，1995.

5）Backx,F.J.G.et al.：Injuries in high―risk sports.Am J Sports Med 19：124～130，1991.

6）加藤公ほか：ハンドボール全日本男子選手の外傷・障害と予防対策―体力測定とメディカルチェックからの検討．117～120，1999.

7）Jesch,J.：Arthropological characteristics of the top handball players 1995 championship,Iceland.Sports Medicine and Handball 2：29～32，1995.

全日本実業団ハンドボールチャレンジ2000大会要項

（高松宮杯第41回全日本実業団ハンドボール選手権大会予選）

1 主催 （財）日本ハンドボール協会
　全日本実業団ハンドボール連盟
2 主管 愛知県ハンドボール協会
　愛知県実業団ハンドボール連盟
3 後援 中日新聞社
4 期日 平成12年2月11日（金）～2月13日（日） 3日間
5 会場
・愛知県体育館
　住所 名古屋市中区二の丸1－1
　TEL 052－971－2516
　※使用期間 2月11・12・13日
・ブラザー工業体育館
　住所 名古屋市瑞穂区苗代町15－1
　TEL 052－824－2969
　※使用期間 2月11日
6 参加資格
　全日本実業団ハンドボール連盟平成12年度C登録以上（日本ハンドボール協会A登録、個人登録）
7 参加人員
　役員・監督4名、選手16名（内試合出場は14名）
　登録後のメンバー変更は認めない。
8 参加料
　大会参加料 75,000円（内2万円は審判費用分担金、5千円は商品代）
9 申込期日
　平成11年12月22日（水）迄に必着のこと。
　ただし大会参加料については平成12年1月31日までに振り込みのこと。
10 申込先
　申込書等 各1通を（ア）と（イ）に送付し、参加料を（ウ）に振込むこと。
（ア）〒492-8540
　愛知県稲沢市北島西の町30番地
　豊田合成（株）内装開発室 横山英則
　TEL 0587－34－3315
　FAX 0587－34－3319
（イ）〒160-0000 東京都新宿区本塩町14
　（株）三陽商会 総務部内
　全日本実業団ハンドボール連盟
　TEL 03－3357－4413
　FAX 03－3357－4454
（ウ）さくら銀行 名古屋駅前支店
　（店番号483）
　普通 6884131
　愛知県実業団ハンドボール連盟
　代表 金久昌彦
11 競技方法
　Aグループ（全日本実業団ハンドボール選手権大会予選として参加）
　リーグ戦方式
　Bグループ（全日本実業団チャレンジ2000大会のみ参加）
　トーナメント戦方式
12 競技規則
　平成11年度（財）日本ハンドボール協会競技規則による。
　試合時間については、
　Aグループ 全て30－10－30
　Bグループ 全て25－10－25
　決しない時は第一延長のち7mTC
　決勝は第一延長、第二延長を行い、同点の時は両者優勝とする。
　大会参加申込み後のキャンセルは認めない。
　もし大会参加申込み後の不出場は厳罰に処する。
13 組み合わせ
　全日本実業団ハンドボール連盟の責任抽選とする。
14 試合球
　日本ハンドボール協会公認球
15 表彰
(1) Aグループ上位4チーム
　（3位2チーム）
　Bグループ上位3チーム
　を表彰する。
(2) 個人表彰 全日本実業団ハンドボールトーナメント大会及びチャレンジ大会にメンバーとして下記の年数登録された選手。
　10年 20年 25年
　参加申込み時に別添書類にて申請のこと。
16 開会式及び諸会議
日時 平成12年2月10日（木）16時～
場所 ブラザー工業ビースクエア
　・名古屋市瑞穂区苗代町15－1
　TEL 052－824－2969
　17：00～審判会議
　17：30～代表者会議（監督、主将）
　18：15～開会式
　（監督、主将、功労賞受賞者）
　19：00～懇親会
　（役員、審判員、希望者）
17 宿泊
　別途「宿泊申込要領」を送付。直接申込み願います。
18 その他
(1) 全日本実業団ハンドボール選手権大会はAグループ上位2チームが出場権を得る。
　「デンソー」の全日本実業団ハンドボール選手権大会への出場権を与える。
(2) 本大会運営にあたり、事故防止には十分配慮しますが、万一不幸にして事故が発生したときは、応急処置のみを実施し、以後の責任は負いかねます。
(3) 参加者は必ず保険証を持参すること。
(4) ユニフォームは2色用意すること。
　（GKのユニフォームはCPのものとは異なること）
(5) 体育館での松ヤニの使用を認める。
　ただしコート以外での使用は禁止する。
(6) 試合会場内に練習コートはありません。
　屋外での練習になる為、屋外用シューズを準備願います。
(7) チーム責任者は責任者証を携帯願います。

平成11年度コーチ・レフェリー・シンポジウム開催要項

1、開催の目的

（財）日本ハンドボール協会公認指導者、ならびに、公認レフェリーを対象に、今日的なハンドボール界をとりまく諸問題、効果的指導法、判定をめぐる諸問題等の分析・検討をすることによって、指導者、レフェリーとしての各々の資質向上をめざすものである。さらに、将来の日本のハンドボールのあり方を模索するために、活発な情報交換と研究協議を通して連帯感を深め、より一層の組織的充実・発展を図るために開催するものである。

2、主催（財）日本ハンドボール協会

3、主管（財）日本ハンドボール協会指導委員会
（財）日本ハンドボール協会審判委員会

4、期日　平成12年3月10日（金）～12日（日）

5、場所　東京代々木オリンピック記念青少年総合センター
〒151－0052 東京都渋谷区代々木神園町3－1
（新宿駅より小田急線で2つめの駅、参宮橋下車、徒歩5分）

6、内容と日程　別表の通り

7、参加資格

（財）日本ハンドボール協会公認指導者、公認レフェリー
都道府県ハンドボール協会指導者組織を代表する者（指導者担当者等）

都道府県ハンドボール協会審判組織を代表する者（審判長等）

日本リーグの各チームを代表する者（監督等）

都道府県ハンドボール協会、各連盟において推薦された者
注）日本リーグ審判員については、講習参加ポイントとなります。

公認指導者については、義務研修の一つとなります。

指導者担当者・審判長等については、各都道府県協会より、それぞれ最低各1名のご参加をお願いいたします。

日本リーグチームにおいては、最低1名のご参加をお願いいたします。

8、経費

参加費4000円

宿泊は、施設の関係上45名前後代々木のセンターの宿泊が可能です。（申し込み順）

代々木のセンター宿泊希望の方は、参加費と宿泊費8000円が必要となります。

宿泊費には、10日（金）夕食から12日（日）朝食までの食事代が含まれます。

資料代は、別途制作実費を受付時に徴収いたします。

9、参加申込は、別紙申込書に必要事項を記入の上、経費を添えて下記までご送付下さい。

〒150－0041 東京都渋谷区神南1－1－1
（財）日本ハンドボール協会
コーチ・レフェリー・シンポジウム係
申し込み締め切り　平成11年2月23日　必着

10、その他

公認指導者の方は日体協から送付されております「公認指導者手帳」をご持参下さい。

公認審判員の方は「公認審判員手帳」をご持参下さい。

公認指導者は「講習会参加証」に、審判員には、「講習会受講印」を押印いたします。

なお、この件に対するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

（財）日本ハンドボール協会
（指導部）笹倉　清則　TEL03－3300－3304（日女体大）
（審判部）花野　誠一　TEL042－721－1582（昭和薬大）
090－1043－7487（携帯）

内容と日程

日時	3/10（金）	3/11（土）	3/12（日）
8:30		討論会報告 4部門代表	世界トップの戦術 男子Nスタッフ
10:00		日本の強化 男女Nスタッフ	ビーチハンドボール 小学校におけるハンドボール
13:00	受付 協会理事挨拶 市原・大西	熊本予選分析 強化・指導委員	
15:00	レフェリングについて 斉藤審判長	ルール変更の傾向 審判委員会	
18:00	一貫化指導 強化委員会		
20:00	4部門に分かれて討論会（審判とコーチ）		

※講師の都合により、内容が一部変更になることがあります。ご承知おきください。

がんばれ ハンドボール10万人会 会員だより（特別会員紹介）

北の大地のハンドボーズ

北海道協会副理事長　山辺文彰

何とか、この競技をメジャーなものに、一人でも多くの人々にプレイして欲しい、知って欲しいの願いを持ち続け、夢中で関わってきた36年間を回顧するに、親不孝、父親失格、ハンド狂いの住職、園長と、恥ずべきことばかりではあるが、決して後悔はしない素晴らしい人生をこの競技から、そしてこの競技を通じて出会った沢山の方々からいただいたと思っております。素晴らしいゲーム、選手、指導者、審判の方々との出会い。美味しい酒を汲み交わしながら、夜を徹してのハンドボール談議。心地よい汗と疲れ、嬉しい涙、悔しい涙、己の置かれている立場で考えてみると、お檀家さん、幼稚園の園児父母、職員、そして自分の家族へのほんの少しの懺悔の気持ち。

気が付いてみたら、人生の3分の2がハンドボールであったことになります。我が子が高熱を出しているのを知らずに、当時コーチをしていた高校の生徒を連れて遠征していたこと。大切な高体連予選の決勝の日に葬式が3件重なり、慌しく済ませて駆けつけたが負けてしまったこと。日曜日の法事の多い日に父に仕事を全部預け試合場に行っていたこと。審判が不足していた時代なので、仕事を早く終わらせて試合場に少しでも早く行かなければと思うが故に、衣の下に審判着を着込んでいたこと、などなど。よくもまあ、離縁もされず、表札が変わることもなく、寺を追い出されることもなく今日迄来たものであると胸を撫で下ろしています。

そんな私ですが、11年は大手を振ってハンドボールに接することが出来る事がありました。それは、普段私が更生を目的として教誨に赴いている釧路刑務所からの、所内でのハンドボール実施による指導の依頼でした。少しでも多くの人々に、この熱意のもと喜び勇んで行ってみたが、幾つかの壁にぶつかってしまった。「ゴールポストは所内の工場で作って下さい」と図面を預けたところ、出来上がったものは木製の折り畳みのもので、1～2発シュートを打てば壊れるような代物。「脱獄の道具に使う可能性のある頑丈なものを所内に置くことは出来ない」との弁。「練習時には副木で補強します」ということで納得し、8月末より土日を除いて通い始めました。木工、鉄工、洗濯、炊飯など7つの工場があり、1つの工場の1日の運動時間が30分。きちんとアップしていたら時間が無くなるので、アキレス腱、膝等、下半身を中心に、上半身はパス練習をしながらという慌しいものでした。10月には工場対抗の所長杯争奪大会の予定なので、ゲームが出来るようにして欲しいとの要望の中、1チームづつ作っておこなったのですが、3対3、4対4、6対6と、チームらしく作って行く段階でこまってしまった。皆同じグレーの服なのである。「片方は上着を脱いで下さい」と言うと、半袖又はランニングのシャツの先は見事な絵が画かれている。ボールの他にゲームベストまで寄付する羽目になってしまった。それやこれやで何とかゲームが出来るようにまでなったが、ここで又壁。私の吹くホイッスルが駄目であると。所内で笛が吹かれる時は脱走があった時とのこと。仕方なく、「ピョオー」という音色の長管笛にしたが、吹く度に実にしまらない判定の笛となってしまった。私が最も懸念したのは、世の中のルールを遵れずに入所することになった人達が、ルールに従うのだろうかということでした。しかし、彼等は純粋にハンドボールを楽しんでくれたし、「これ、めっちゃおもしろいや」など言いながらも、対抗戦の時は真剣に勝利を求め、且つマナーのよいゲームをしておりました。



この様に全国初の「塀の中のハンドボール」は一段落したのですが、冒頭のように「一人でも多くの人々に」、そしてメジャースポーツとしての地位の獲得を切望する気持ちを行動に表わす人間が一地方に存在することを念頭に置いて下さって、さあ、「がんばれハンドボール10万人会」に加入しましょう。

平成11年度から
新会員登録制度
スタート!

がんばれ ハンドボール 10万人会



●HANDBALL　FAMILY

	年会費	主な特典
グランド会員	10.000円	日本協会機関誌（年11回） 日本協会主催大会無料パス 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引
ファミリー会員	3.000円	日本協会主催大会無料 ペア券1枚 会員バッジ 日本協会認定グッズの割引

■登録増によるメリット

- メジャースポーツとして認知
- 登録金の増収

- スポンサーがつく
- 全員参加意識の高揚

財源確保

各種事業への活用と充実
- 小・中学校の普及
- ビーチ・マスターズ・車いすハンドの支援
- ミニハンドボール競技の導入
- ジュニア層の重点強化
- 各大会の補助金アップ
- 国際大会の招致
- 一貫指導体制の確立

団結しよう!
ハンドボール・ファミリー

少子化の影響などにより登録人口の減少傾向が各スポーツ界の大きな悩みになっています。昨今の経済不況も深刻さを増すばかりです。

今こそハンドボール・ファミリーが団結する時です。皆さんが自分のチームを愛するように、日本ハンドボールを愛して下さい。登録人口が増え、財源が大きくなれば、小・中学校の普及はもとより、ビーチ・マスターズ・車椅子ハンドボールの支援、ミニハンドボールの普及、また強化の根幹となるジュニア層の重点強化、そして各大会の補助金アップや国際大会の招致などにつながります。

皆さん1人ひとりが主役です。選手、審判、役員、OB、OGなどに限らず新たなサポーターも募り、全員参加のもとでメジャー化を図り、ハンドボール文化を構築しましょう。

グランド会員、ファミリー会員への入会方法

所定の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、お申し込み下さい（郵送の場合は切手は必要ありません）。後日、日本ハンドボール協会から会員バッジなどをお送りします。年会費はご指定を受けた金融機関の口座から引き落としさせていただきます（ほとんどすべての金融機関でご利用できます）。

なお、申し込み用紙は、日本協会、各都道府県協会、または各全国連盟事務局にご請求下さい。

財団法人　日本ハンドボール協会

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育館内
TEL.03-3481-2361　FAX.03-3481-2367
http://www.handball.or.jp/

協会だより

平成11年11月常務理事会

【日　時】11月20日(土)10時～12時
【場　所】青山メトロ会館
【出席者】中澤副会長、市原専務理事、常務理事9名、理事2名、事務局2名

【議　題】
1. 選手登録規定の運用について
「(1) 教育機関チームの登録申請時期の延長について、新年度に新規登録ができないケースを考慮して、登録申請期間の延長をすることができる。(2) 教育機関チームに所属する選手の移籍について、元のチームの責任者の承認印がなくても移籍ができる。」の2件について第3回理事会で結審する事とした。

2. 全日本総合選手権大会について
(1) 役員立会人制度について承認
(2) 次年度以降の開催地について、報告
(3) 全日本総合女子の部について、実行委員会を設置する、日本リーグ2チームの補充について承認

3. シドニー五輪アジア予選について
組み合わせ抽選会、契約調印について報告。
参加国について、IHFからのペナルティーによる出場停止について説明があり、男女5カ国の参加が確定したことを報告。
男子6日目、韓国対日本戦を熊本放送が放映することで、試合時間の変更を調整する事となった。
褒賞金について確認をした。
大会入場料について決定した。
実行予算について、参加チームが減ったことから予算案の変更報告があったが、全体的には資金不足であり、少額からでも協力要請をすることとした。
大会役員、IHF・AHF役員、テクニカル委員、審判等を確認した。

4. 読売スポーツ賞の推薦について
筑波大学女子ハンドボール部を推薦することを決定。

5. 11年度予算進捗状況および補正について
10月30日現在の状況について報告
コーチレフェリーシンポジウム、がんばれハンドボール10万人会感謝祭・シドニー五輪アジア予選壮行会について、2次補正することで承認。

【報告・了承事項】
1. 熊本国体・富山国体について
熊本国体報告。富山国体ブロック割り当てチーム数について了承。
2. ワールドゲームスについて
ビーチハンドボールの実施について、IHF常任理事会の決定を待つことを確認。
3. 日本リーグ部長会報告
11月18日開催。特別強化資金の12年度依頼額について了承を得たことを報告。
4. 11年度選手登録について
10月報告分より修正した、まとめの報告。
チームスタッフの登録数について、まとまり次第報告することとした。
5. 10万人会について
本部会報告。会員拡大につなげるための提案があり検討する事となった。
6. 強化関連事項について
全日本チームの7月以降の事業結果報告。第14回女子世界選手権について報告。
7. シドニー五輪アジア予選壮行会について
日本リーグ選抜チームスタッフ選考について了承。
8. 平成11年度コーチレフェリーシンポジウムを平成12年3月10日より12日に開催する。

平成11年度 第2回全国理事会

【日　時】平成11年11月20日（土）13時00分～16時30分
【場　所】青山メトロ会館　会議室
【出席者】中澤副会長、市原専務理事、常務理事9名、理事6名、参事7名、監事3名

開会に先立ち、故真田参事の後任として、佐々木英明氏が日本中体連より参事に推薦され、了承された。

【議　題】
1. 登録規程について
大学・高校等の登録締切日について、現行規程では、申請締切後は同チーム名で新規登録ができないため、不都合が生じている。転校のためのチーム移籍に関して、元のチーム責任者の承認が受けられないため、移籍の手続きが出来ない不都合が生じている。
以上2点に関して、2月全国理事会までに内容を整理し、規程改定を提案したい旨報告があり、承認された。

2. 全日本総合選手権大会について
立会人制度に基き専務理事などで立ち会うことが常務理事会で承認されたことを報告。大会組合せについて報告。日本協会推薦枠チームが辞退したため、

代わりに北陸電力を推薦したことを報告。

女子の部について、平成12年2月に神奈川県で開催の報告。活動停止チームの補充については、調整中であることを報告。

次年度以降の開催地について、平成12年度は広島での開催が決定、平成13年度は関東地区で千葉県協会の創立記念事業として開催することが候補となっていることを報告。日本協会として、平成14年以降の開催地を推薦してほしい旨、要望された。

今年度から立会人制度を確立し、さわやかな試合の実施をはかりたい。制度に慣れるまでは、専務理事、常務理事などで、権威付けをしていきたい旨述べられた。

3. シドニー五輪アジア予選について

11月11日に組み合わせ抽選会、調印式が実施されたこと、参加チーム数、参加レフェリーなど決定報告。

強化スケジュールについて報告

参加国減少の理由について、クウェート、サウジアラビア、バーレーンに対する制裁措置があったことを報告。

大会役員名簿を報告。

褒賞金について報告。

予算書について訂正がなされた。

「ハンドボールをみんなで応援しよう」の趣旨で、都道府県協会、市町村協会に協賛金の拠出依頼したい旨了承。各ブロック、各チームからの協力を依頼。

予算に向けた、強化状況の報告。

一般スポンサー協賛金のブロックでの働きかけについて依頼がなされた。

【報告・了承事項】

1. 読売日本スポーツ賞に、筑波大学女子ハンドボール部を推薦することを報告

2. 平成11年度予算の執行状況について報告

3. 熊本国体、富山国体について

熊本国体結果報告

富山国体ブロック割り当てチーム数について報告。

富山国体以降のブロック割り当て数について質問があり、2月全国理事会で最終決定を見たい旨回答された。

4. ワールドゲームズでのビーチハンドボールの実施について、IHF・COCとして実施を検討中であり、この推移を待っている状況との報告。

5. 日本リーグ部長会議について

JHL第25回大会の打ち合わせを行った。

強化特別登録金について、負担軽減をし継続依頼をした結果、了承を得た。

地方（第3地域）での開催には、開催地に5万円の負担を依頼することになった。

今年度大会は、観客動員約100名減との報告。

女子3チームの休廃部報告。

男子2部に豊田合成の新加入を報告。

6. 平成11年度登録のまとめについて

平成11年度登録について報告。チーム役員については、正確を期すため後日役員宛郵送することとした。

専務理事より、全国理事長会で高校選抜大会ブロック予選に関して質問が出されたが、過去の歴史的経緯を踏まえ、高体連で充分な検討をお願いしたい旨、要望された。

7. 強化関連事項

第14回女子世界選手権大会について報告。

長期展望に立ったナショナルチームの強化を目指すため、ナショナルトレーニングシステムを各ブロックにおいて小中高から選抜した子供たちに実施し、一貫指導体制の確立をはかりたい。これを2月理事会に諮りたい。

専務理事より、一貫指導体制に資金を投資するので、各学校で長期的な視点で協力してほしい旨、述べられた。

8. 「がんばれハンドボール10万人会」について

各都道府県に、「がんばれハンドボール10万人会」推進委員の推薦依頼をしたところ、3分の2の都道府県から推進委員の名前が挙がってきていることを報告。

「10万人会」の登録状況報告。

規約を改正することを報告。

ブロック会議や多くの大会に日本協会役員を派遣し、制度の認知普及をしていきたい。今年度卒業していく方への案内は確実に行っていきたい。

9. シドニー五輪アジア予選壮行会について

シドニーオリンピックアジア予選壮行試合を、「がんばれハンドボール10万人会」感謝祭を兼ねて1月8日・9日に開催する。

【各ブロック・連盟からの報告、審議事項】

［北海道ブロック］

学校のチームを退部した生徒が、新しいチームに入部困難なことに関して、質問と依頼がなされ、選手登録規程を熟読して対応してほしい旨回答された。

［東海ブロック］

中学生の登録金ついて質問がなされ、多少なりとも協力があれば、協会の援助はしやすいとの回答がなされた。また、中学生の選手登録については、県協会レベルで行っているところもあるとの説明があった。

［中国ブロック］

クラブ選手権の開催について質問があり、明年2月までに結論を出したいとの回答があった。

［全国高体連］

インターハイでの役員登録に関連して、出場チームのチーム役員3名、選手14名であることが確認された。

［全国高専連盟］

役員登録していないとベンチ入り出来ないことの確認があった。

〈近森克彦理事よりご寄付〉

（財）日本ハンドボール協会近森克彦理事・全日本実業団ハンドボール連盟理事長のご母堂様が、去る12月7日（火）にご逝去なされました。近森理事におかれましては、ご葬儀を同9日（木）に無事すまされ、香典返しとして10万円のご寄付を日本協会宛に戴きましたのでご報告を致します。

筑波大学女子ハンドボール部が「日本スポーツ賞」受賞



読売新聞社が制定いたします「1999年第49回日本スポーツ賞」の選考委員会が、12月21日、読売新聞社にて開かれ、委員の慎重なる協議の結果、筑波大学女子ハンドボール部への「競技団体別最優秀賞」の受賞が決定いたしました。

この受賞は、全日本学生ハンドボール選手権大会2連覇を始めとして、2年連続学生界の4タイトルを全て制覇したことに加え、くまもと国体では、筑波大学女子チームを中心としたメンバーで、日本リーグチームを破り本大会まで進んだことが評価されたものです。

本年度女子全日本総合選手権が2月に開催されますが、この全日本総合を始めとして、来年度ますますの活躍が期待されます。

なお、近年の受賞チームや受賞された方々は以下の通りです。

回	年	受賞者・チーム
41回	1991年	日本体育大学男子チーム（3回目）
42回	1992年	橋本行弘（本田技研）
43回	1993年	西山　清（日新製鋼）
44回	1994年	緒方嗣雄（女子ナショナルチーム監督）

回	年	受賞者・チーム
45回	1995年	横浜商工高チーム
46回	1996年	㈱中村荷役チーム
47回	1997年	男子世界選手権代表チーム
48回	1998年	横浜商工高チーム（2回目）

●2月の行事予定

■全日本実業団チャレンジ2000
　2月11日～13日：愛知県体育館・ブラザー工業体育館
■2月常務理事会・第3回理事会
　2月5日(土)：日体協402会議室
■第2回評議員会
　2月26(土)：南青山会館
■12年度事務取扱責任者会議
　2月27(日)：青山メトロ会館

●TV放映告知

■2月19日（土）18：30～20：00　TVK
　大同特殊鋼×本　田　技　研
　20：00～21：30　TVK
　デ　ン　ソ　ー×ト　ヨ　タ　車　体
■2月20日（日）19：00～20：30　TVK
　三　陽　商　会×OSAKI　OSOL

東京都ハンドボール連盟の創立30周年記念オープントーナメントのお知らせ

現在、左記大会の参加チーム（男女）を受け付けています。
詳しくは担当理事の川口定男（☎03-5399-2513）に問い合わせるか、下記のホームページを参照して下さい。
http://www.asahi-net.or.jp/~mq5m-knk/30club_open.htm

HAND BALL CONTENTS DEC

(財)日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』　第四〇四号
昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可
平成十二年一月二十六日印刷　平成十二年二月一日発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話　代表　三四八一ー二三六一
振替　〇〇一二〇ー七ー一〇二九三
編集兼発行人　市原則之
価格は登録金に含む